

目 次

はじめに

I 概 要

1. 神奈川県のがん登録	1
(1) がん登録のしくみと統計で使用する語句や数値について	1
(2) がん登録の精度指標について	4
(3) 本報告書で用いる指標の解説	5
(4) 全国がん登録に係る神奈川県がん情報提供事務処理要綱	6
(5) 全国がん登録における神奈川県がん情報の利用規約	12
(6) 神奈川県悪性新生物登録事業実施要綱	17
(7) 神奈川県がん登録がん情報管理要領	19
(8) 神奈川県悪性新生物登録資料の利用に関する規定	22
(9) 神奈川県悪性新生物登録資料の取り扱いについて	29
2. 神奈川県のがん登録の経過	30
3. 全国がん登録システム／神奈川県悪性新生物登録システム	31
4. 令和元年度神奈川県のがん登録事業実施状況	33
5. 報告書一覧	37
6. 平成29年のり患算定方法	39
7. 死亡統計	39

II 神奈川のがん（平成29年り患集計）（平成28～29年り患集計）

1. がんのり患	41
(1) 平成29年のがんのり患	41
(2) 主要部位別り患割合	42
(3) 年齢階級別り患割合	44
(4) 主要部位の年齢階級別り患割合	47
2. 地域とがん	51
(1) 地域区分	51
(2) 地域別のがんり患状況（レーダーチャート）	52
(3) がんのり患マップ	54
3. 経年の観察	62
(1) 年齢調整り患率（人口10万対）の年次推移	62
(2) 年齢階級別のがんり患率の年次推移	62
(3) 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の年次推移	65
4. 登録の精度（届出と診断の精度）	69
5. 受診の動機	72
(1) 検診で発見されたがん	72
6. 診断・治療の状況（部位・地域・病院規模）	74
(1) 診断方法	74
(2) 治療の状況	74
(3) 受療医療機関	76
7. 5年相対生存率	77
8. 他都道府県のがん登録との比較（全国がん登録）	78
9. 平成29年のがんり患数と死亡数の比較	80

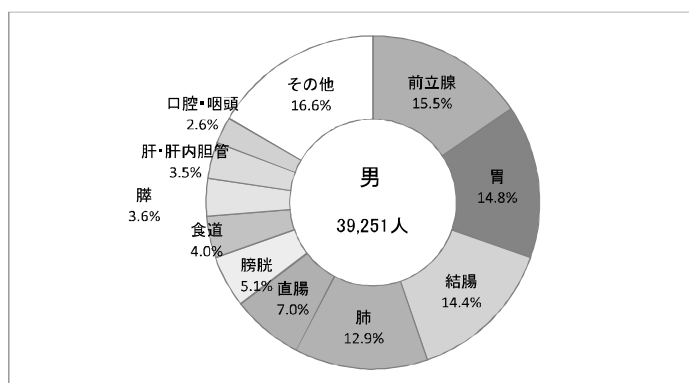
III 付 表	81
---------	----

Ⅱ. 神奈川のがん（平成29年）

1. がんのり患

(1) 平成29年のがんのり患

順位	男	り患数
1	前立腺	6,103
2	胃	5,818
3	結腸	5,643
4	肺	5,057
5	直腸	2,729
6	膀胱	1,988
7	食道	1,571
8	膵	1,429
9	肝・肝内胆管	1,381
10	口腔・咽頭	1,025
11	その他	6,507
	合計	39,251



順位	女	り患数
1	乳房	7,453
2	結腸	4,030
3	子宮	3,216
4	肺	2,575
5	胃	2,432
6	直腸	1,446
7	膵	1,280
8	卵巣	903
9	皮膚	840
10	悪性リンパ腫	781
11	その他	5,491
	合計	30,447

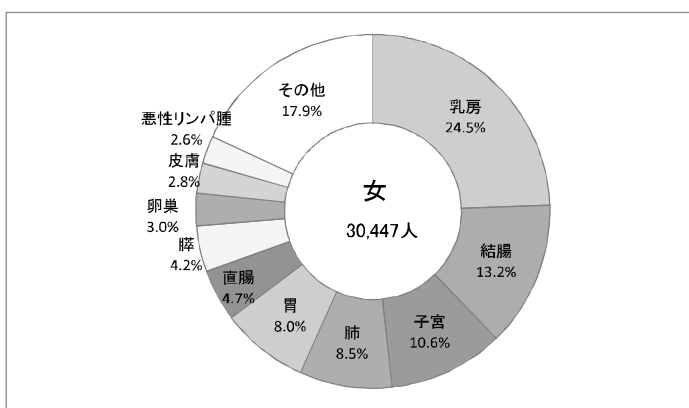


図4 悪性新生物部位別り患の比較 —平成29年—

令和元年度の神奈川県悪性新生物登録事業では、概要の4. 事業実施状況（33ページ）で報告している登録票と平成30年の死亡票の処理を行ったほか、平成29年の悪性新生物（以下「がん」と称す）のり患、死亡状況についての集計・解析を行った。集計対象年が2年前の「平成29年」であるのは、概要の6. り患算定方法の項（39ページ）で説明した理由に依っている。

平成29年の本県のがんのり患者は、69,698人（男39,251人、女30,447人）であった。そのうち県下の医療機関からの届出によって登録されたのは、66,081人（94.8%）、死亡票により確認されたものが3,617人（5.2%）であった。り患数は平成28年と比較すると1,272人（男778人、女494人）の増加であった。

がんの部位別割合をみると（図4）、男で最も多いのは前立腺で6,103人（15.5%）、次いで胃5,818人（14.8%）、結腸5,643人（14.4%）、肺5,057人（12.9%）、直腸2,729人（7.0%）、膀胱1,988人（5.1%）、食道1,571人（4.0%）、膵1,429人（3.6%）、肝・肝内胆管1,381人（3.5%）、口腔・咽頭1,025人（2.6%）、その他6,507人（16.6%）の順であった。女で最も多かったのは乳房7,453人（24.5%）、次いで結腸4,030人（13.2%）、子宮3,216人（10.6%）、肺2,575人（8.5%）、胃2,432人（8.0%）、直腸1,446人（4.7%）、膵1,280人（4.2%）、卵巣903人（3.0%）、皮膚840人（2.8%）、悪性リンパ腫781人（2.6%）その他5,491人（17.9%）の順であ

た。平成28年のり患割合と比較すると、男では前立腺、肺、膵の割合が、女では子宮、肺、膵、悪性リンパ腫、卵巣の割合が増加し、男の胃、肝・肝内胆管、直腸、膀胱、食道、口腔・咽頭、女の結腸、胃、乳房、直腸、皮膚は減少している。

人口10万人あたりの粗り患率は男869.0、女669.5、平成28年は男853.5、女660.7であり、男女とも高くなっている。また、年齢調整り患率（標準人口は世界人口－付表34－を用いた）は男326.4、女291.5、平成28年は男327.3、女288.1であり、男は0.9ポイント低くなったものの、女は3.4ポイント高くなった。主要部位別のり患数、粗り患率、年齢調整り患率は（付表1、2、3）に掲載した。

(2) 主要部位別り患割合

我が国のがんの死亡を人口動態統計で観察すると、日本人の3.6人に1人ががんで死亡し、生涯リスクにおいては2人に1人ががんになり患するといわれる（平成30年厚生労働白書より）。

がんのり患については神奈川県地域がん登録で観察する限り、胃がんや肺がん、結腸がん、乳がんのり患が多いことが観察されている。しかし、経年的にがんの死亡やり患を部位別に細かく観察すると、性別、年齢別に少しずつ変化していることがわかる。

表5は平成28-29年（2年間）と10年前の平成18-19年（2年間）の主要部位別、性別のり患数、り患割合、性比を比較したものである。平成28-29年の男のり患数78,114人、女のり患数は60,637人であり、10年前の平成18-19年の男のり患数は47,407人、女のり患数は33,469人で、男女ともり患数の増加がみられる。

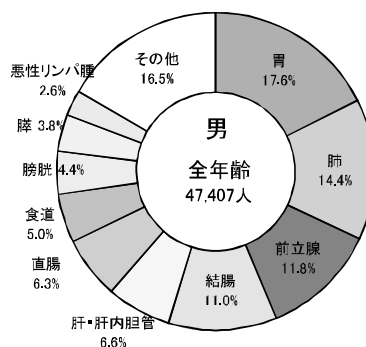
図5より、部位別の構成割合をみると、男は肝・肝内胆管が6.6%から3.6%へ、胃が17.6%から

表5 主要部位・性別・り患数およびり患の割合と性比

部位	ICD-10	平成18年-平成19年					平成28年-平成29年				
		男 (M)		女 (F)		性比 M/F	男 (M)		女 (F)		性比 M/F
		数	%	数	%		数	%	数	%	
全部位	C00-C96,D06	47,407	100.0	33,469	100.0	1.4	78,114	100.0	60,637	100.0	1.3
口腔・咽頭	C00-C14	1,216	2.6	435	1.3	2.8	2,066	2.6	806	1.3	2.6
食道	C15	2,355	5.0	352	1.1	6.7	3,145	4.0	708	1.2	4.4
胃	C16	8,349	17.6	3,665	11.0	2.3	11,789	15.1	4,964	8.2	2.4
結腸	C18	5,215	11.0	4,034	12.1	1.3	11,262	14.4	8,260	13.6	1.4
直腸	C19-C20	2,997	6.3	1,627	4.9	1.8	5,482	7.0	2,957	4.9	1.9
肝・肝内胆管	C22	3,111	6.6	1,495	4.5	2.1	2,837	3.6	1,376	2.3	2.1
胆のう・胆管	C23-C24	1,036	2.2	1,017	3.0	1.0	1,464	1.9	1,178	1.9	1.2
膵	C25	1,792	3.8	1,389	4.2	1.3	2,796	3.6	2,447	4.0	1.1
喉頭	C32	491	1.0	28	0.1	17.5	554	0.7	45	0.1	12.3
肺	C33-C34	6,825	14.4	2,887	8.6	2.4	9,915	12.7	4,978	8.2	2.0
骨	C40-C41	43	0.1	27	0.1	1.6	68	0.1	58	0.1	1.2
皮膚	C43-C44	581	1.2	563	1.7	1.0	1,741	2.2	1,734	2.9	1.0
前立腺	C61	5,597	11.8	-	-	-	11,831	15.1	-	-	-
乳房	C50	36	0.1	6,978	20.8	-	96	0.1	14,914	24.6	-
子宮	C53-C55,D06	-	-	2,841	8.5	-	-	-	6,257	10.3	-
卵巣	C56	-	-	1,234	3.7	-	-	-	1,781	2.9	-
膀胱	C67	2,089	4.4	620	1.9	3.4	4,016	5.1	1,137	1.9	3.5
白血病	C91-C95	753	1.6	469	1.4	1.6	970	1.2	650	1.1	1.5

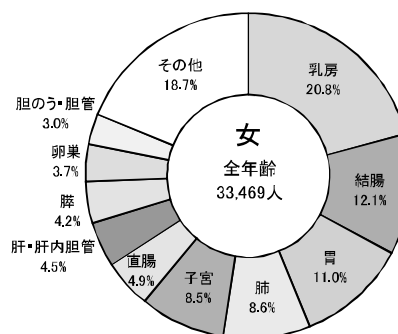
平成18-19年男

順位	男	り患数
1	胃	8,349
2	肺	6,825
3	前立腺	5,597
4	結腸	5,215
5	肝・肝内胆管	3,111
6	直腸	2,997
7	食道	2,355
8	膀胱	2,089
9	膵	1,792
10	悪性リンパ腫	1,220
11	その他	7,857
	合計	47,407



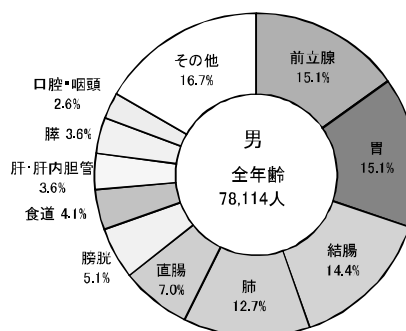
平成18-19年女

順位	女	り患数
1	乳房	6,978
2	結腸	4,034
3	胃	3,665
4	肺	2,887
5	子宮	2,841
6	直腸	1,627
7	肝・肝内胆管	1,495
8	膵	1,389
9	卵巣	1,234
10	胆のう・胆管	1,017
11	その他	6,302
	合計	33,469



平成28-29年男

順位	男	り患数
1	前立腺	11,831
2	胃	11,789
3	結腸	11,262
4	肺	9,915
5	直腸	5,482
6	膀胱	4,016
7	食道	3,145
8	肝・肝内胆管	2,837
9	膵	2,796
10	口腔・咽頭	2,066
11	その他	12,975
	合計	78,114



平成28-29年女

順位	女	り患数
1	乳房	14,914
2	結腸	8,260
3	子宮	6,257
4	肺	4,978
5	胃	4,964
6	直腸	2,957
7	膵	2,447
8	卵巣	1,781
9	皮膚	1,734
10	悪性リンパ腫	1,504
11	その他	10,841
	合計	60,637

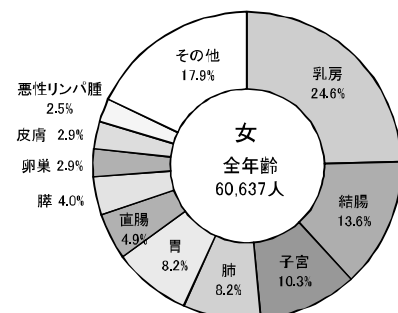


図5 がんの部位別り患割合の比較

15.1%へ、女は胃が11.0%から8.2%へと大きく減少している。また、肝・肝内胆管も男同様に4.5%から2.3%へと減少している。胃、肝・肝内胆管の減少とは逆に、男では結腸や前立腺の割合が大きく増加した。特に前立腺は11.8%が15.1%となり、り患順位では3位が1位となった。女では、乳房、子宮、結腸、皮膚、食道の割合が増加している。

また、女を1とした場合の男の比（性比）をみると、ほとんどの部位で男が高く、喉頭、食道、骨、肺、口腔・咽頭でその差も大きくなっている。

平成18-19年の部位別のり患数を1とすると、10年後の平成28-29年は、男では皮膚が3.0倍、結腸が2.2倍、前立腺が2.1倍に増えている。女では皮膚が3.1倍、子宮が2.2倍、乳房および骨は2.1倍に増えている。

(3) 年齢階級別り患割合

がんの部位別り患割合は性別により異なるように、年齢階級にも違いが観察されている。図6-1、6-2は平成28-29年の2年間の合計り患数を0-14歳、15-39歳、40-64歳、65歳以上の4年齢階級に分け、男女別に主要部位別り患割合を図示したものである。

0-14歳の平成28-29年のり患数は男110人、女113人といずれも少ない。主要部位をみると、男女ともに白血病、脳などが高い割合を占めている。また、白血病以外は成人のがんではあまりみられない部位構成をしている。

15-39歳をみると、男のり患数は823人、女のり患数は3,024人で女が2,201人多い。り患数の多い部位をみると、男では、精巣、結腸、白血病、悪性リンパ腫、直腸の順で、女では、子宮、乳房、卵巣、甲状腺、結腸の順で高い割合を占めている。女の方がり患数が多く、性別によりり患の部位が異なっている。

40-64歳では、男のり患数は14,437人、女のり患数は18,787人である。男は、結腸、胃、直腸、肺、前立腺の順に、女は乳房、子宮、結腸、卵巣、直腸の順にり患割合が高い。また40-64歳の男のがんり患数は、男の総り患数の18.5%を、40-64歳の女のがんり患数は、女の総り患数の31.0%を占めている。

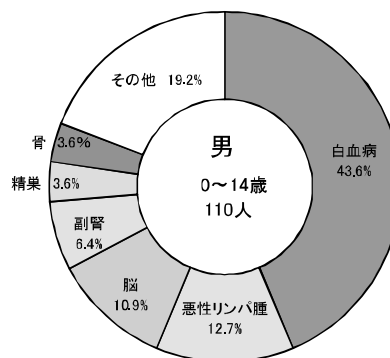
65歳以上の男のり患数は62,829人、女38,771人である。男は前立腺が、女は乳房が最も高く、次いで男は胃、結腸、肺、直腸の順に、女は結腸、胃、肺、脾の順にり患割合が高い。65歳以上の男のがんり患数は、男の総り患数の80.4%を、65歳以上の女のがんり患数は、女の総り患数の63.9%を占めている。

男では、40-64歳で結腸、胃、直腸、肺のり患数が多く、65歳以上では前立腺、胃、結腸、肺のり患数が多くなっている。女では、40-64歳で乳房、子宮、結腸、卵巣のり患数が多く、65歳以上では乳房、結腸、胃、肺のり患数が多くなっている。また、男の65歳以上に前立腺がんが増えてきている。

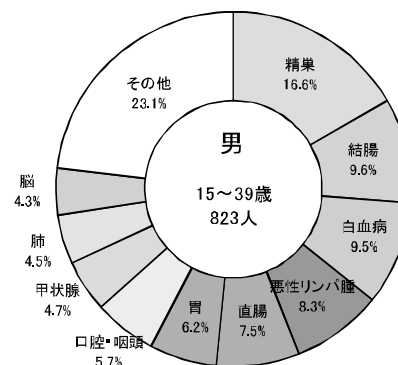
40歳以上の男のり患数は、男の総り患数の98.9%を、40歳以上の女のり患数は、女の総り患数の94.9%を占めている。

がんり患の部位別り患数やり患割合は、性別、年齢階級別に異なり、さらに地域による違いや経年の変化も観察されている（付表2、8、19、21参照）。

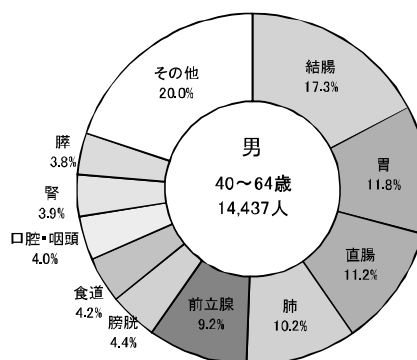
0～14歳		
順位	男	り患数
1	白血病	48
2	悪性リンパ腫	14
3	脳	12
4	副腎	7
5	精巣	4
6	骨	4
7	その他	21
	合計	110



15～39歳		
順位	男	り患数
1	精巣	137
2	結腸	79
3	白血病	78
4	悪性リンパ腫	68
5	直腸	62
6	胃	51
7	口腔・咽頭	47
8	甲状腺	39
9	肺	37
9	脳	35
11	その他	190
	合計	823



40～64歳		
順位	男	り患数
1	結腸	2,498
2	胃	1,706
3	直腸	1,623
4	肺	1,472
5	前立腺	1,330
6	膀胱	640
7	食道	609
8	口腔・咽頭	582
9	腎	562
10	膵	550
11	その他	2,865
	合計	14,437



65歳以上		
順位	男	り患数
1	前立腺	10,512
2	胃	10,045
3	結腸	8,693
4	肺	8,420
5	直腸	3,802
6	膀胱	3,362
7	食道	2,538
8	肝・肝内胆管	2,329
9	膵	2,235
10	皮膚	1,469
11	その他	9,424
	合計	62,829

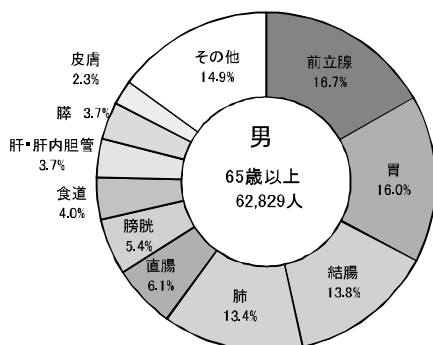
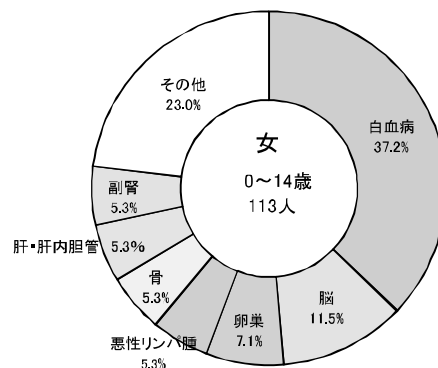
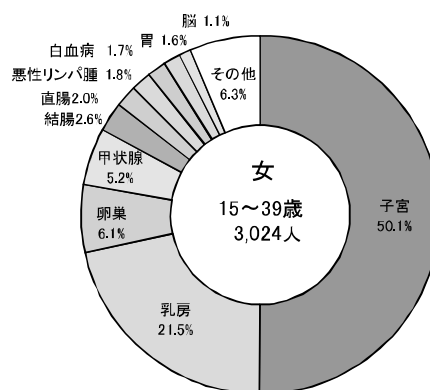


図 6－1 り患の年齢階級別、部位別比較 ―男―（平成28－29年）

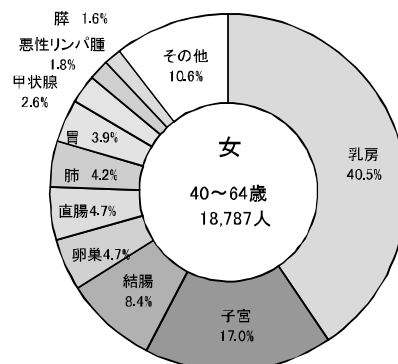
0～14歳		
順位	女	り患数
1	白血病	42
2	脳	13
3	卵巣	8
4	悪性リンパ腫	6
5	骨	6
6	肝・肝内胆管	6
7	副腎	6
8	その他	26
	合計	113



15～39歳		
順位	女	り患数
1	子宮	1,515
2	乳房	651
3	卵巣	184
4	甲状腺	157
5	結腸	80
6	直腸	60
7	悪性リンパ腫	55
8	白血病	50
9	胃	47
10	脳	32
11	その他	193
	合計	3,024



40～64歳		
順位	女	り患数
1	乳房	7,615
2	子宮	3,202
3	結腸	1,577
4	卵巣	890
5	直腸	890
6	肺	791
7	胃	732
8	甲状腺	486
9	悪性リンパ腫	343
10	膵	299
11	その他	1,962
	合計	18,787



65歳以上		
順位	女	り患数
1	乳房	6,663
2	結腸	6,608
3	胃	4,191
4	肺	4,161
5	膵	2,131
6	直腸	2,009
7	子宮	1,548
8	皮膚	1,464
9	肝・肝内胆管	1,229
10	悪性リンパ腫	1,103
11	その他	7,664
	合計	38,771

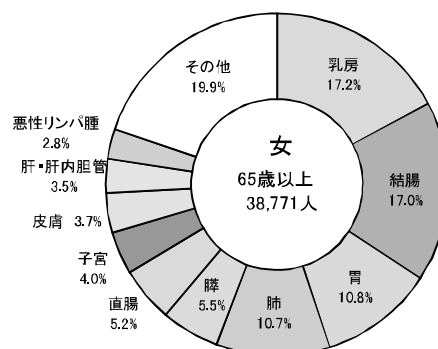


図 6 - 2 り患の年齢階級別、部位別比較 —女— (平成28～29年)

(4) 主要部位の年齢階級別り患割合

平成28-29年のり患数より、部位別、性別、5歳毎の年齢階級別のり患割合を図7-1、7-2、7-3に示した。ほとんどのがんは40歳頃より増加し、65-75歳頃が最も高い割合を占めていることがわかる。年齢階級別にみると、乳房、卵巣は最も高い割合を占める年齢が45-49歳である。女性では、口腔・咽頭、胃、結腸、肺、膵、皮膚、膀胱、白血病は85歳以上でも高い割合を占めている。

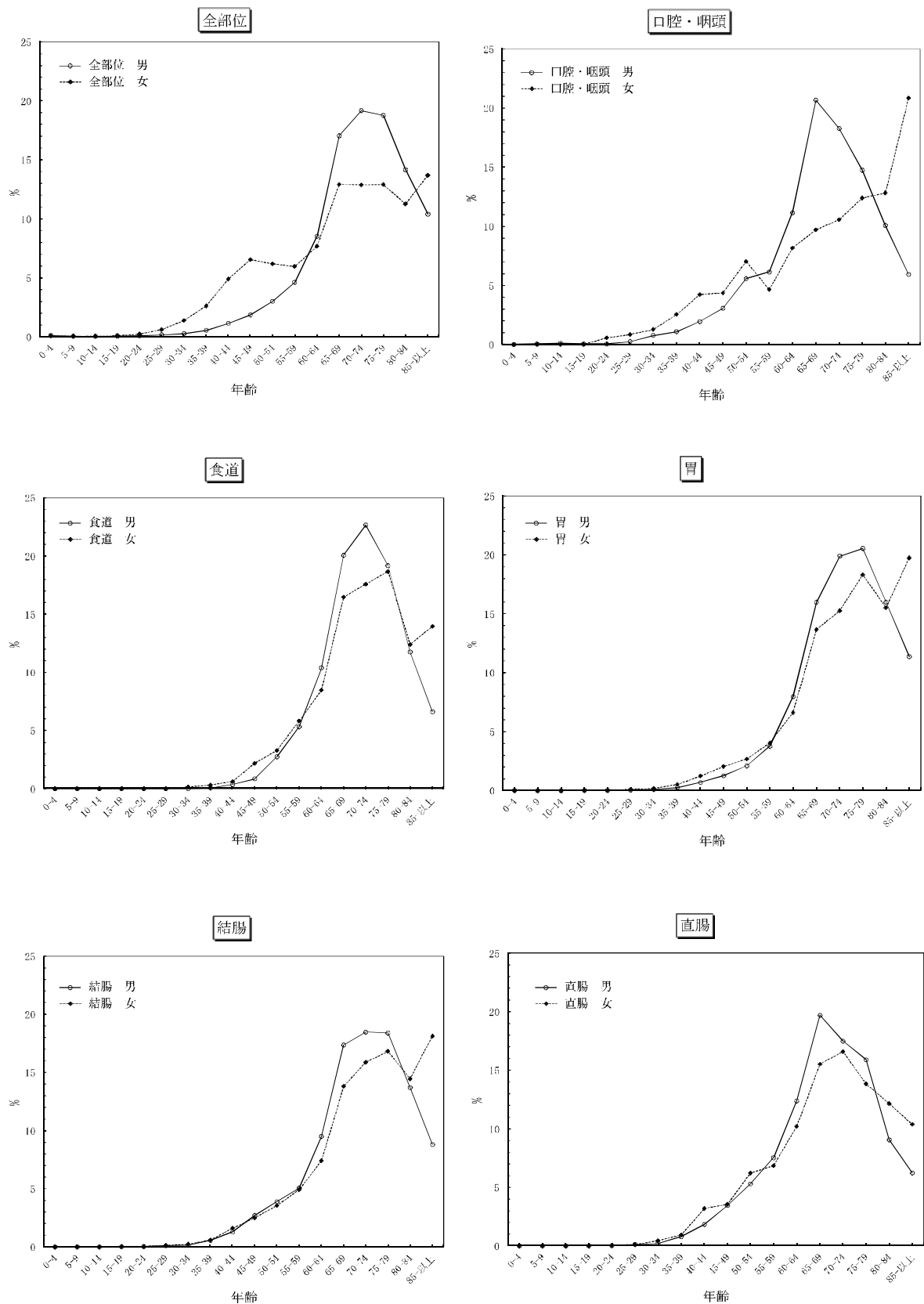


図7-1 部位別、年齢階級別罹患割合(%) (平成28-29年)

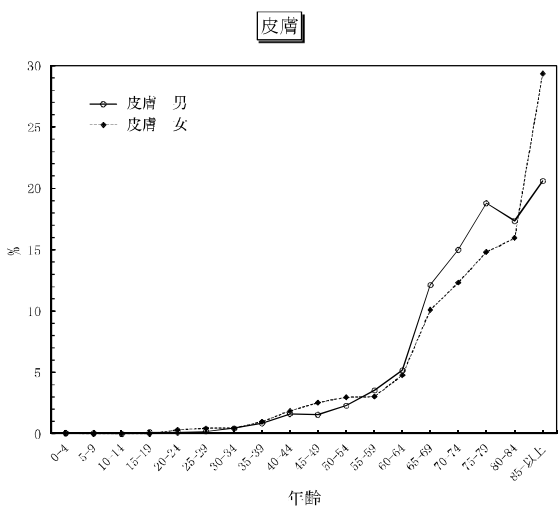
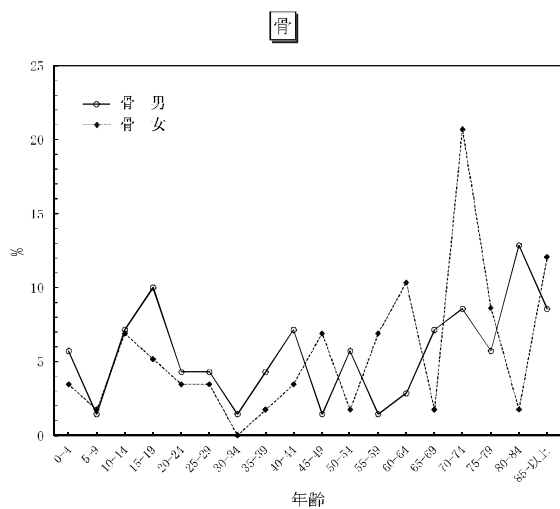
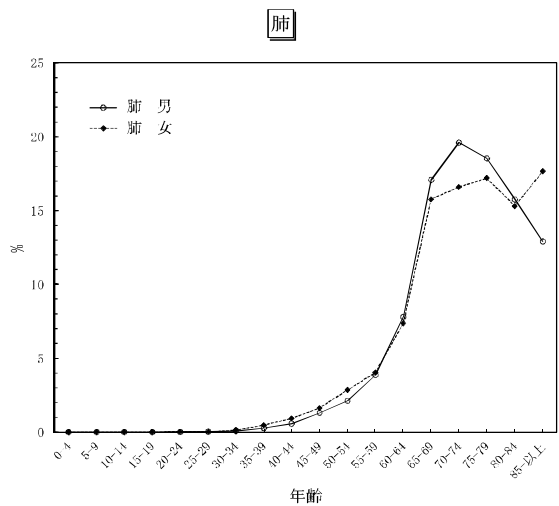
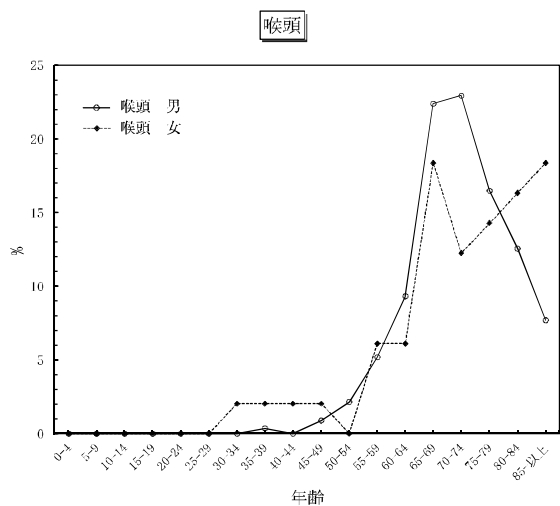
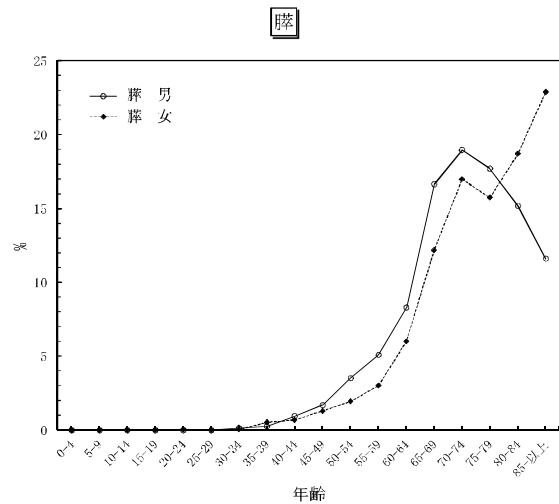
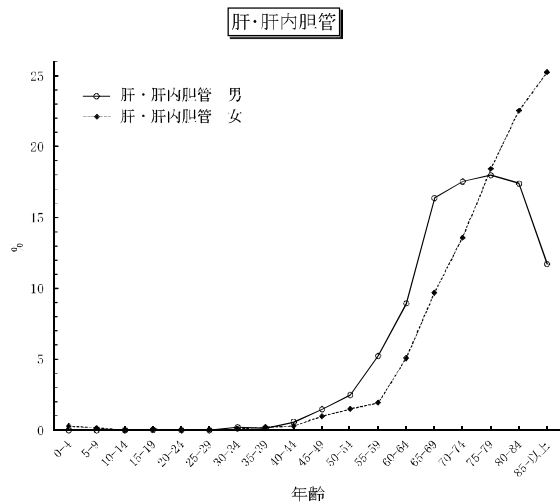


図 7-2 部位別、年齢階級別罹患割合 (%) (平成28-29年)

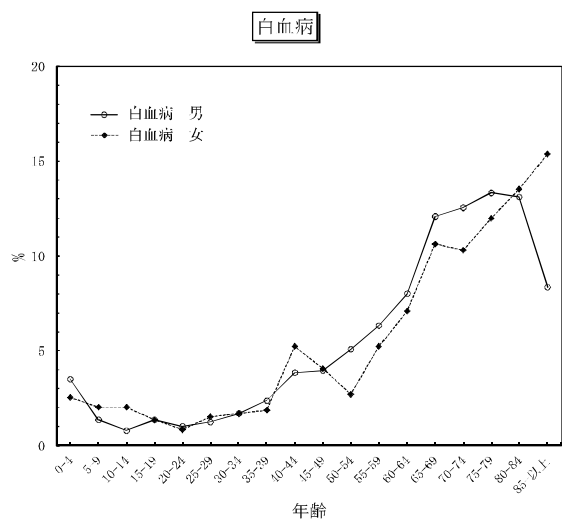
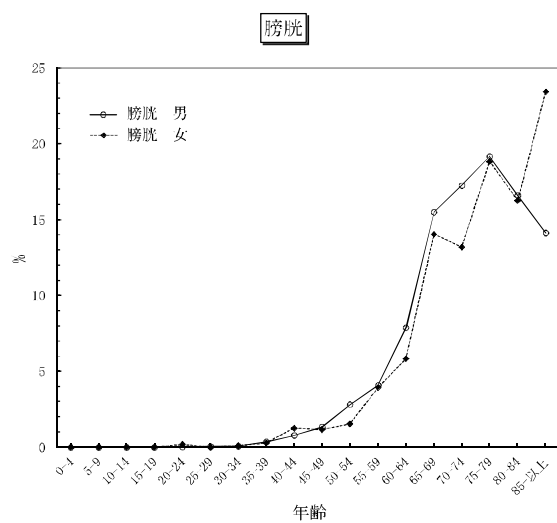
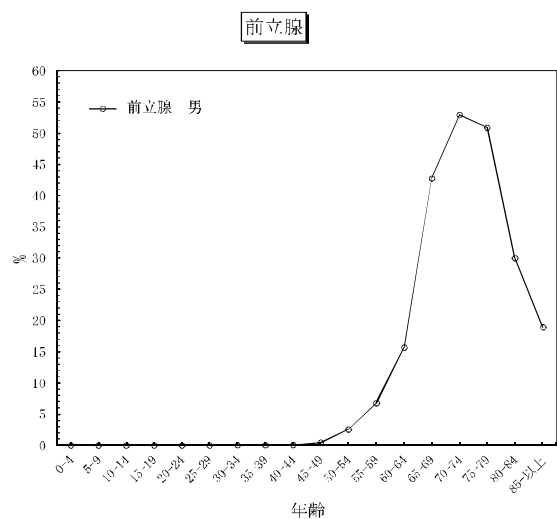
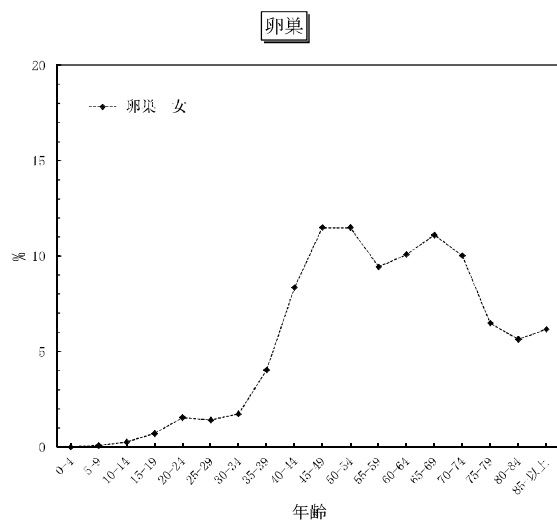
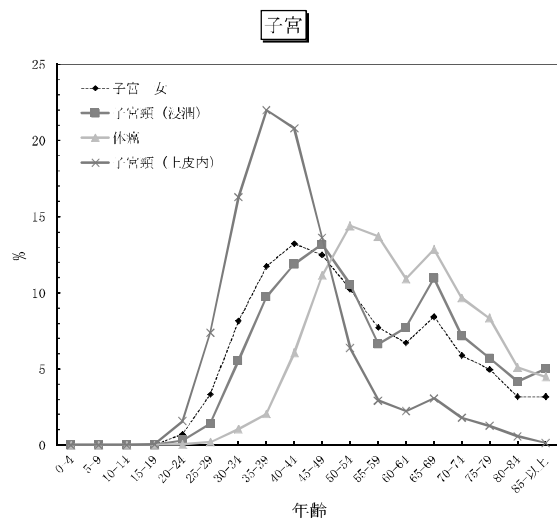
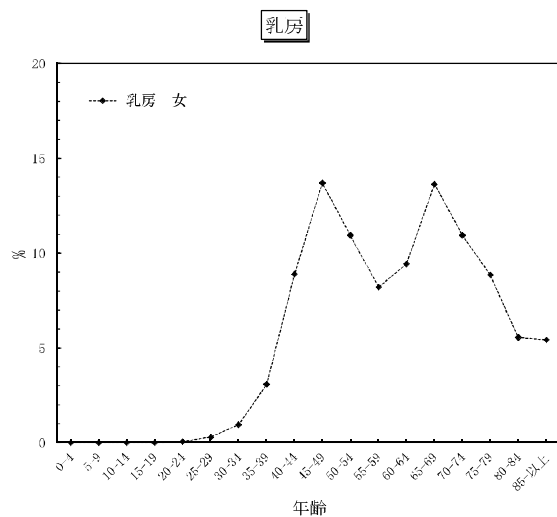


図 7-3 部位別、年齢階級別り患割合 (%) (平成28-29年)

2. 地域とがん

(1) 地域区分

神奈川県を11の二次保健医療圏ブロックに分け、がんの部位別のり患率を観察した。地域区分は図8に示し、それぞれに含まれる市区町村は下表にのせた。

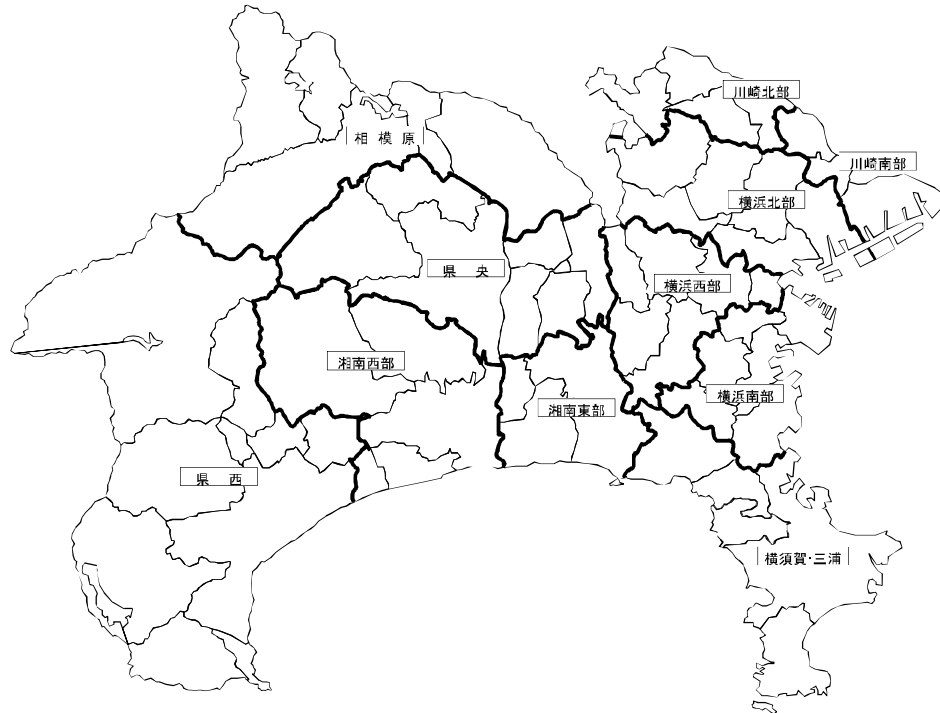
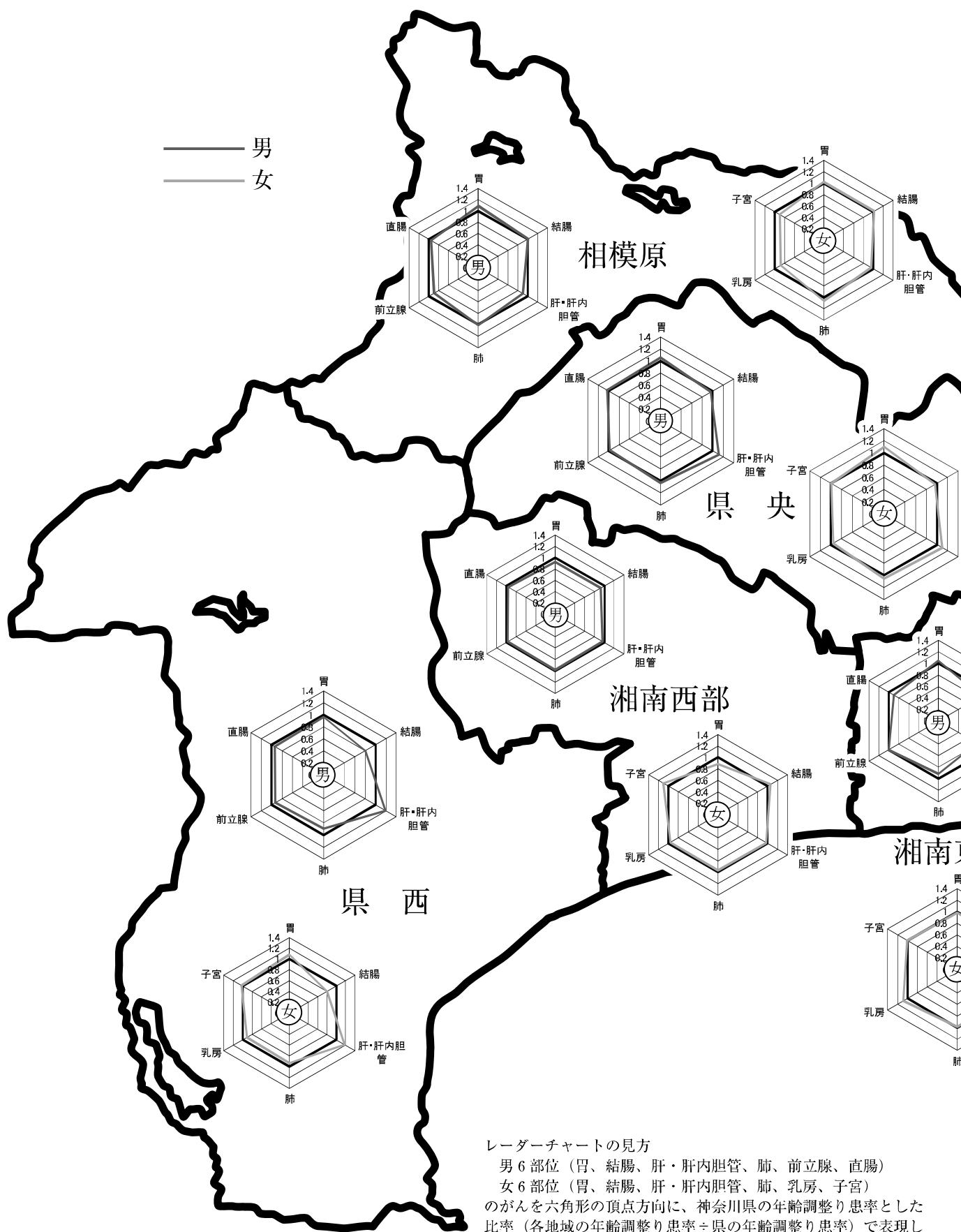


図8 地域区分

二次保健医療圏名と構成市区町村名

二次保健医療圏名	市区町村名
横浜北部	鶴見区、神奈川区、港北区、緑区、青葉区、都筑区
横浜西部	西区、保土ヶ谷区、旭区、戸塚区、泉区、瀬谷区
横浜南部	中区、南区、港南区、磯子区、金沢区、栄区
川崎北部	高津区、宮前区、多摩区、麻生区
川崎南部	川崎区、幸区、中原区
横須賀・三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
湘南東部	藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町
湘南西部	平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
相模原	相模原市
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
計（11圏域）	19市13町1村

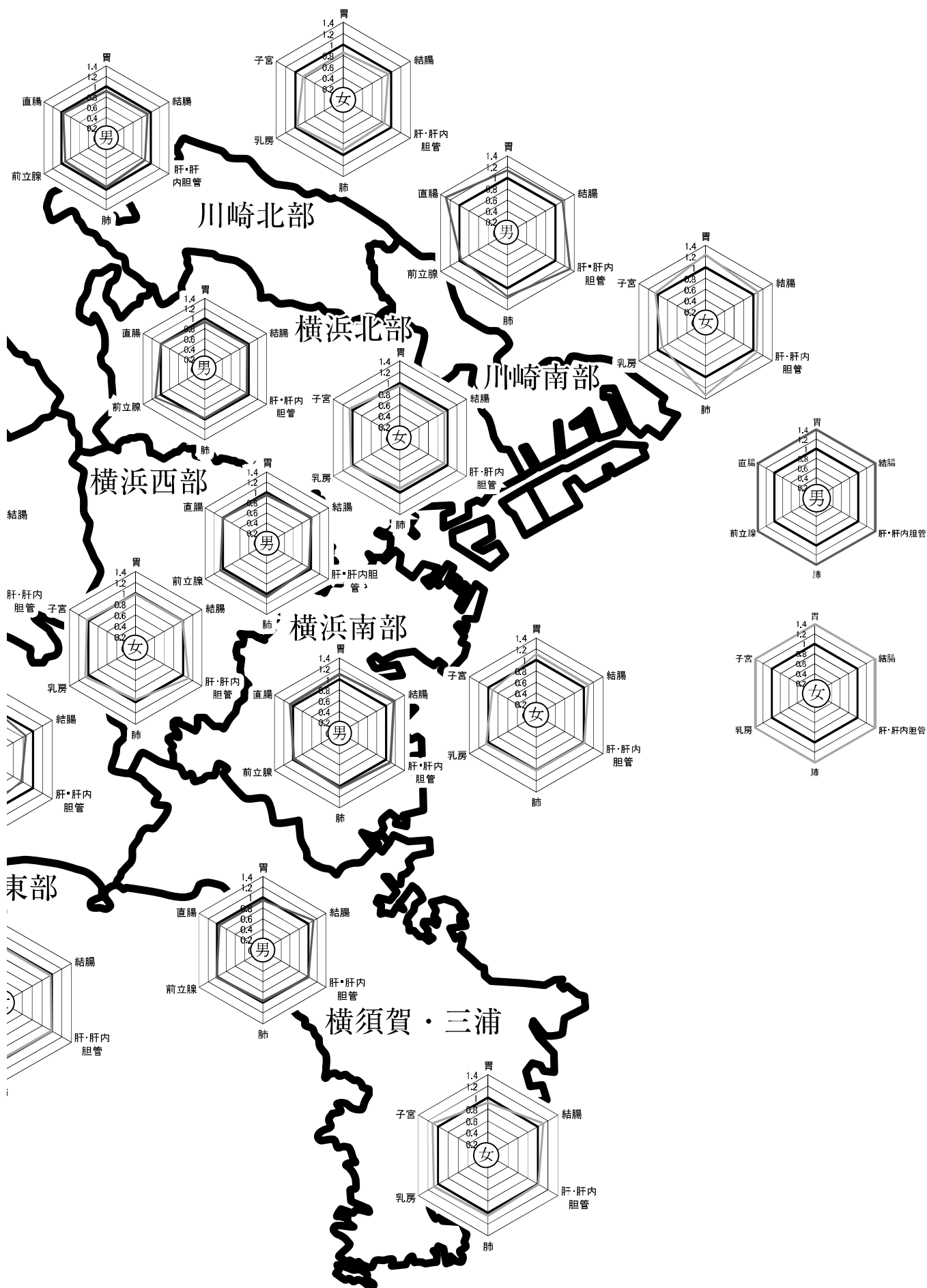
(2) 地域別のがん罹患状況（レーダーチャート）



レーダーチャートの見方

男 6 部位（胃、結腸、肝・肝内胆管、肺、前立腺、直腸）
 女 6 部位（胃、結腸、肝・肝内胆管、肺、乳房、子宮）
 のがんを六角形の頂点方向に、神奈川県年齢調整率とした比率（各地域の年齢調整率÷県の年齢調整率）で表現している。

各頂点は（破線部分）は県の年齢調整率と等しい場合（比率が1.0）を表し、県平均より高い場合（1.0以上）は頂点より外側へ、低い場合（1.0以下）は内側へくる。



(3) がんのり患マップ⁹



図10 がんり患マップ®市区町村位置図

神奈川県内の各市区町村別に部位別年齢調整り患率（平成28～29年）を計算し、り患率の高いところより濃淡で4段階に分類して作図した。また図中の4段階の分類の基準のり患率と神奈川県の年齢調整り患率（人口10万対の値）を県平均として、図11にのせた。濃い色になるに従って年齢調整り患率が高くなっている。

全部位で高い患率を示したところは、男は川崎市川崎区、女は大磯町であった。り患率の低いところは、男女ともに真鶴町であった。

り患率は、届出の精度との関係があるため、届出の精度も併せてみる必要がある。

主要部位については図11-1から図11-14までに図示している。

図11では各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（10万人対、世界人口モデルで調整）について最小値、第1四分位数、中央値、第3四分位数、最大値で区切り、4種類で塗り分けた。

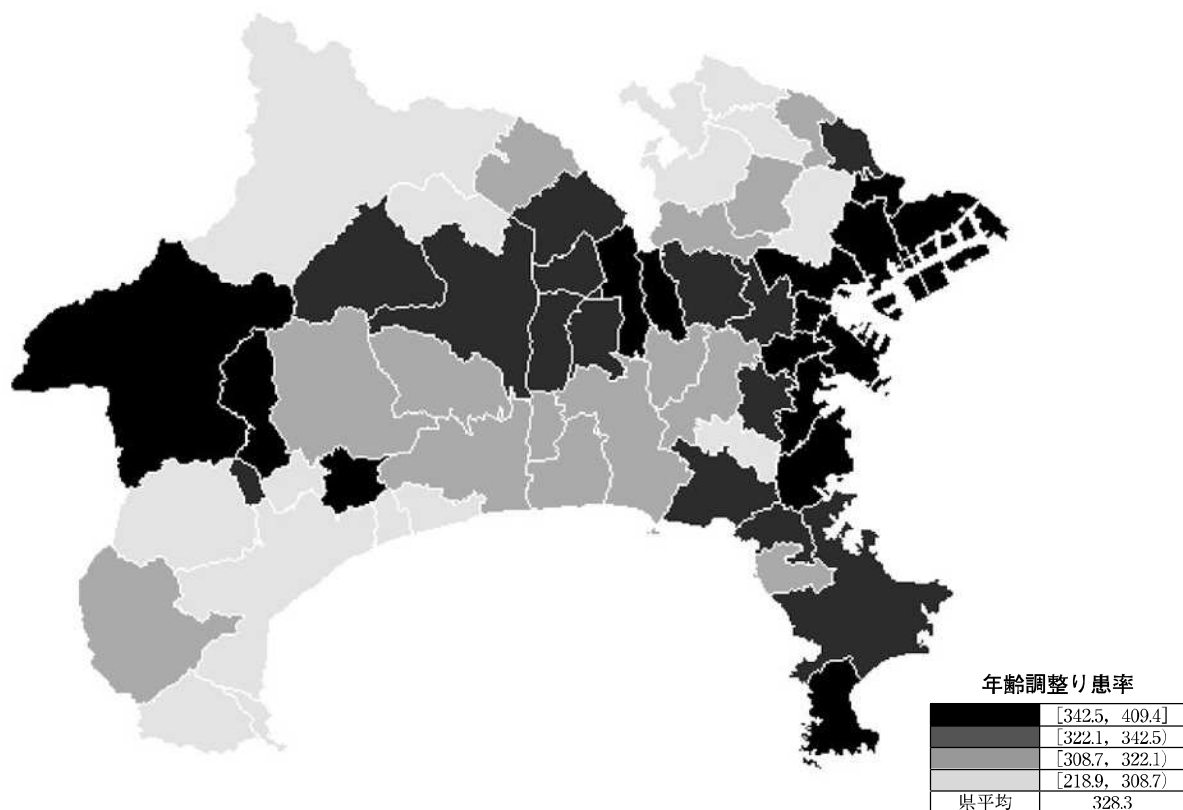


図11-1 全部位（男）（平成28-29年）

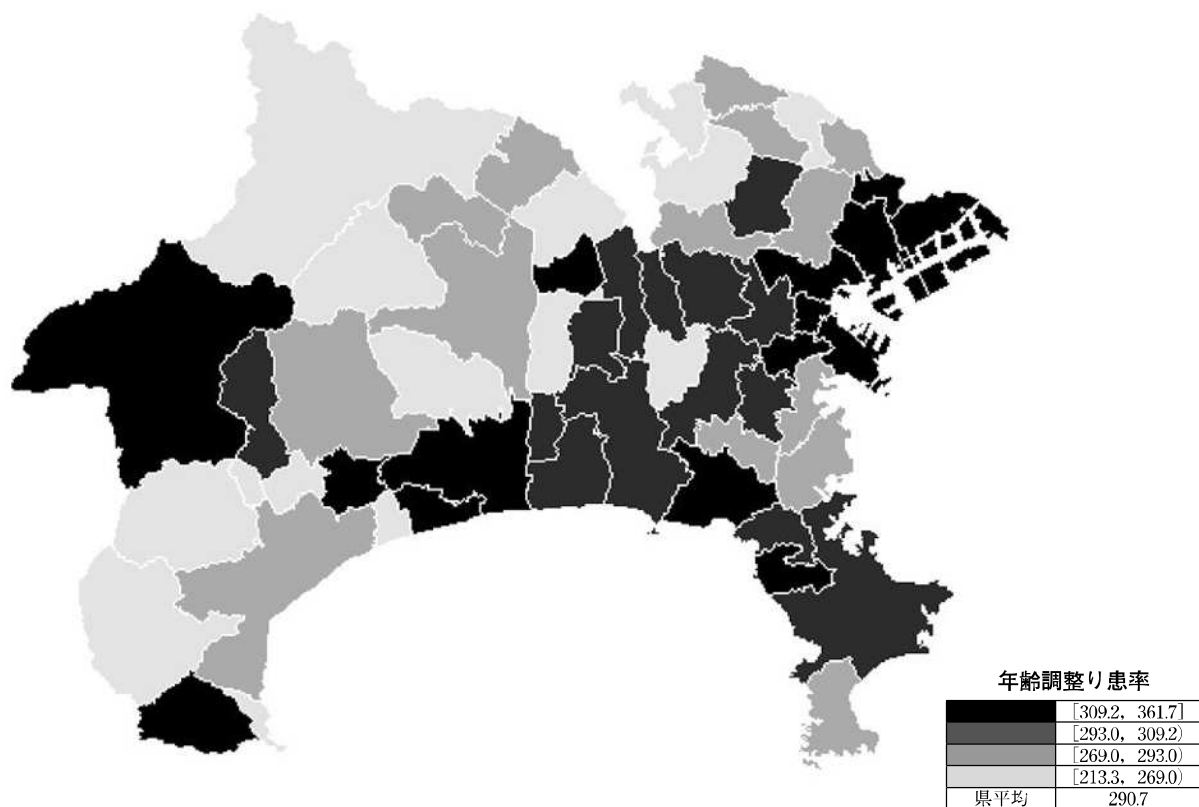


図11-2 全部位（女）（平成28-29年）

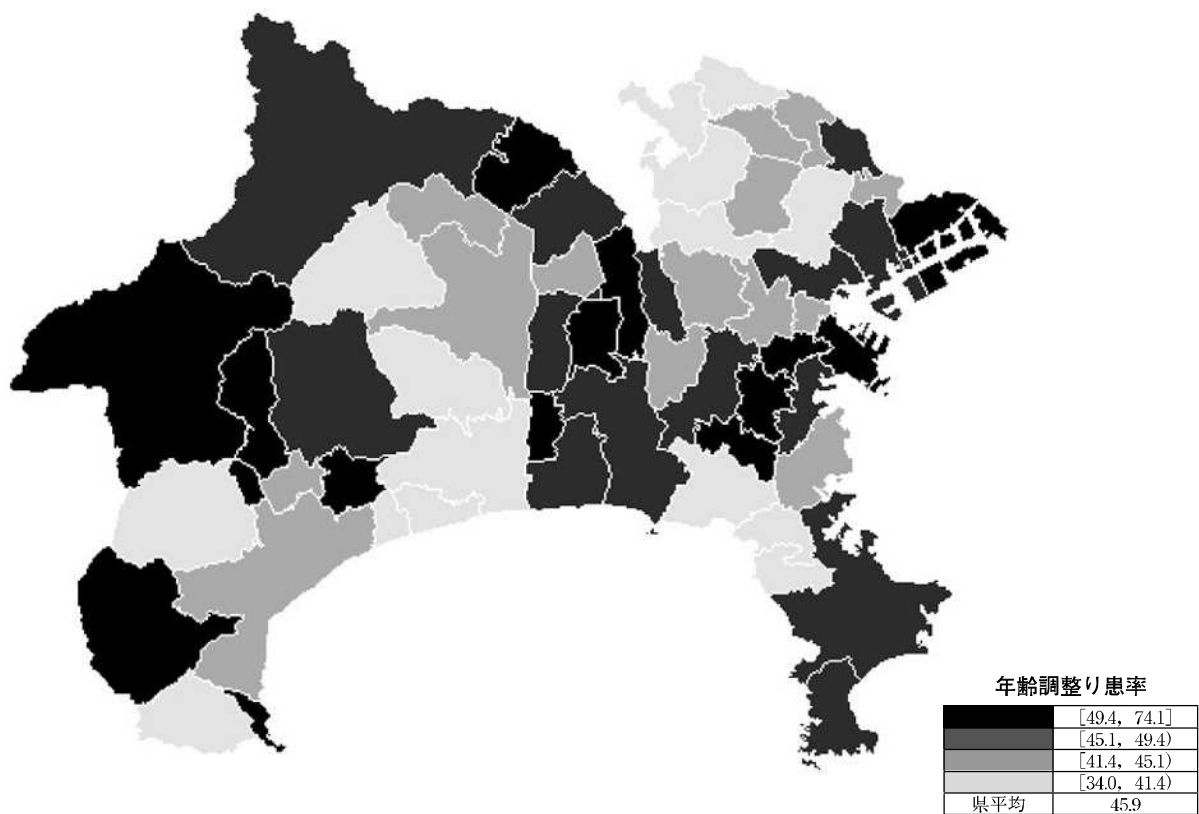


図11-3 胃（男）（平成28-29年）

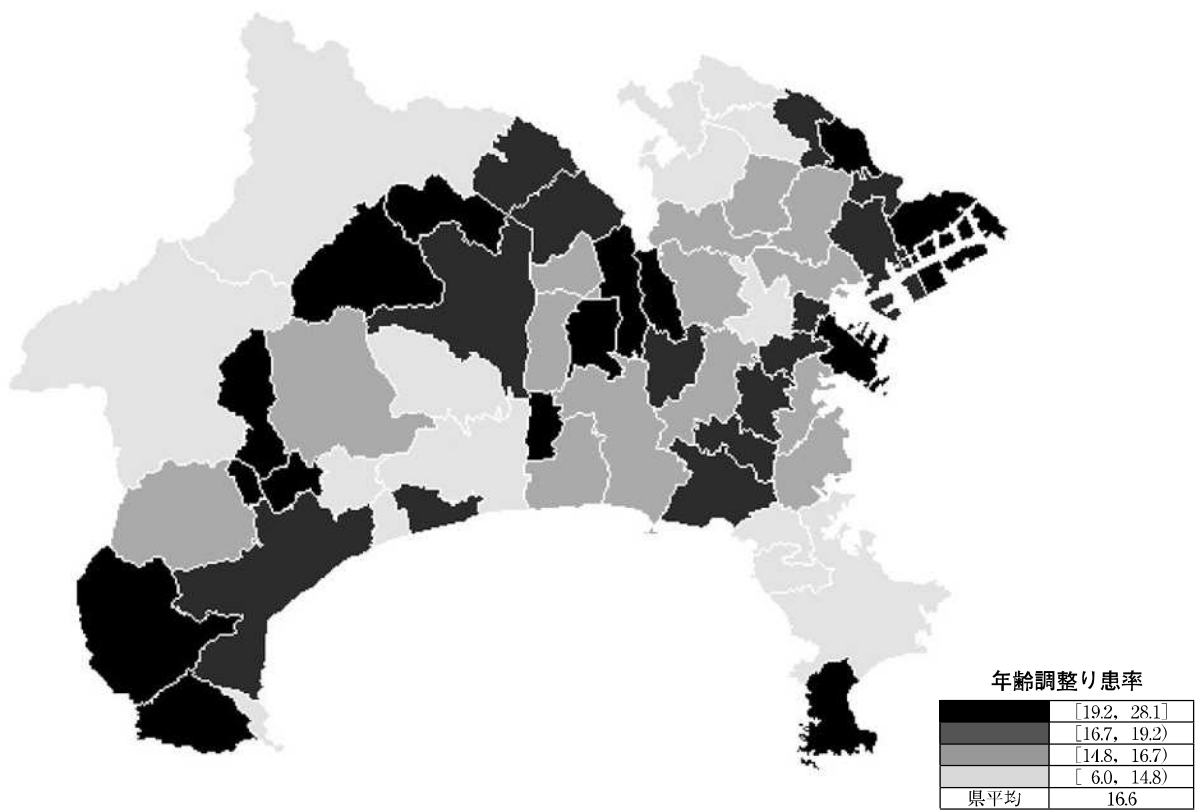


図11-4 胃（女）（平成28-29年）

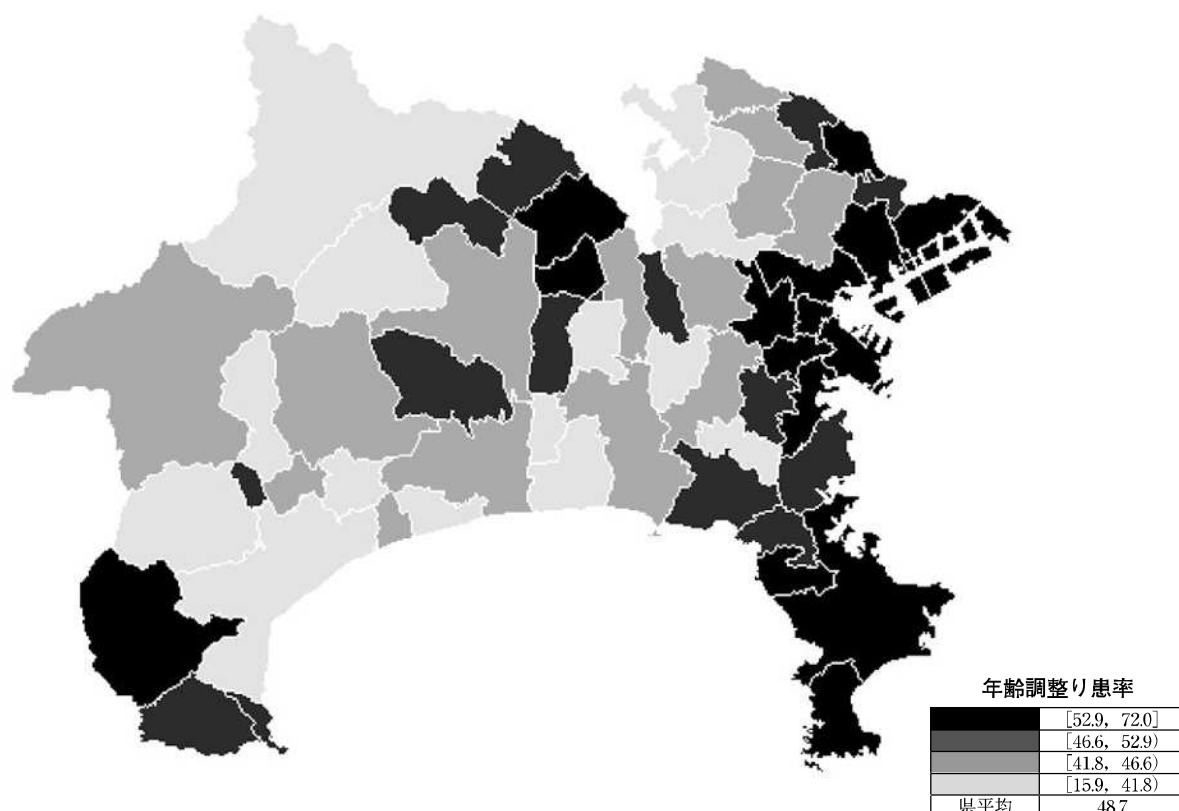


図11－5 結腸（男）（平成28－29年）

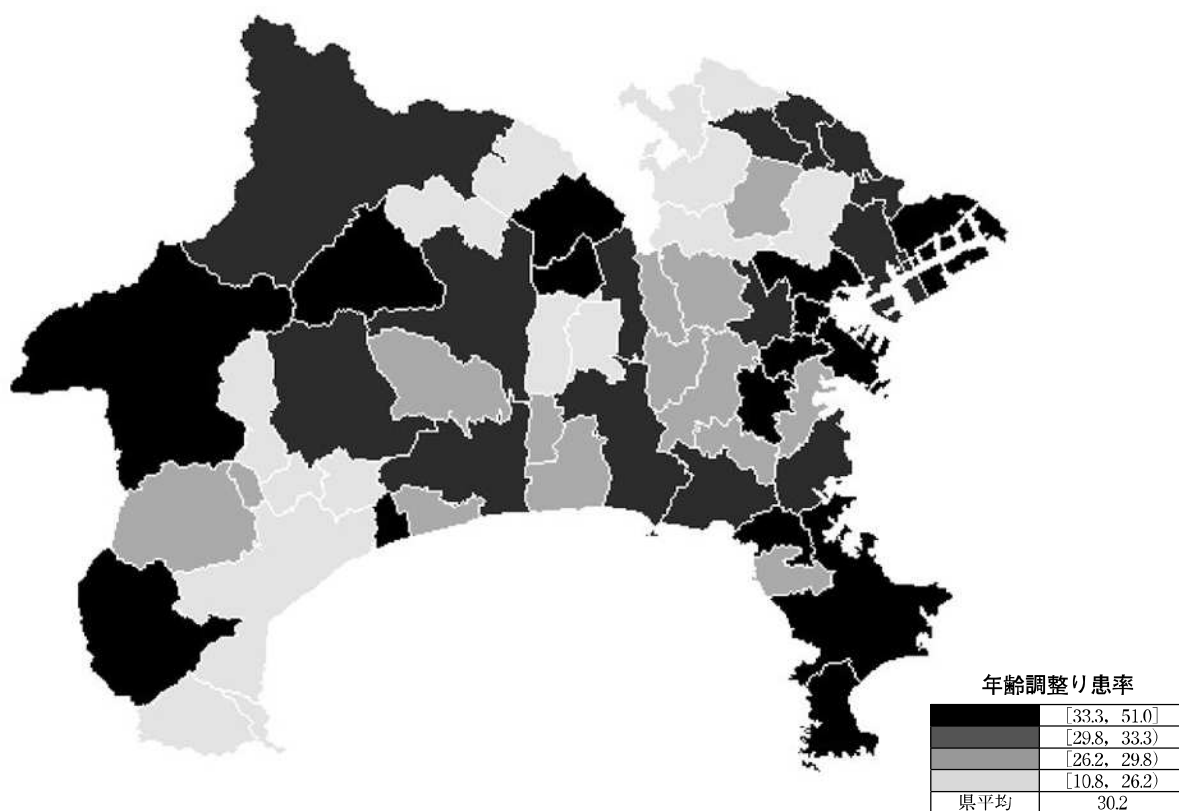


図11－6 結腸（女）（平成28－29年）

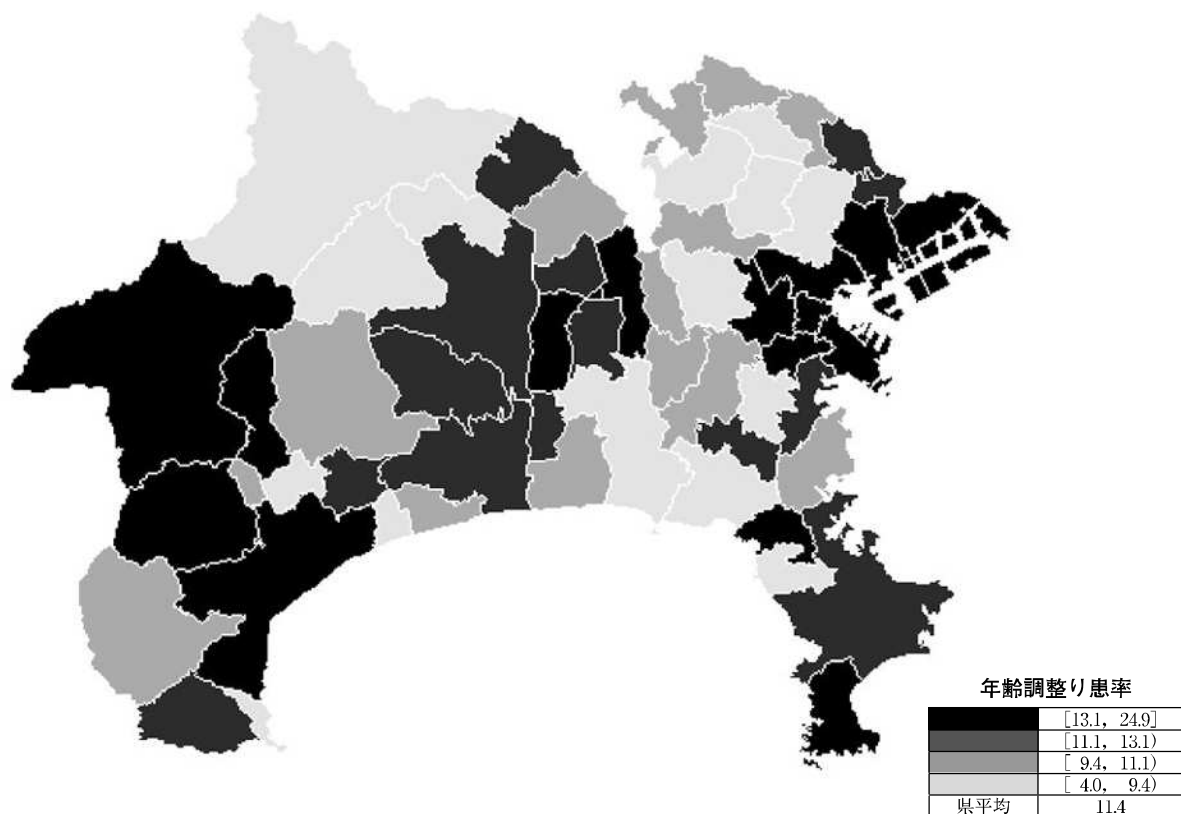


図11－7 肝・肝内胆管（男）（平成28－29年）

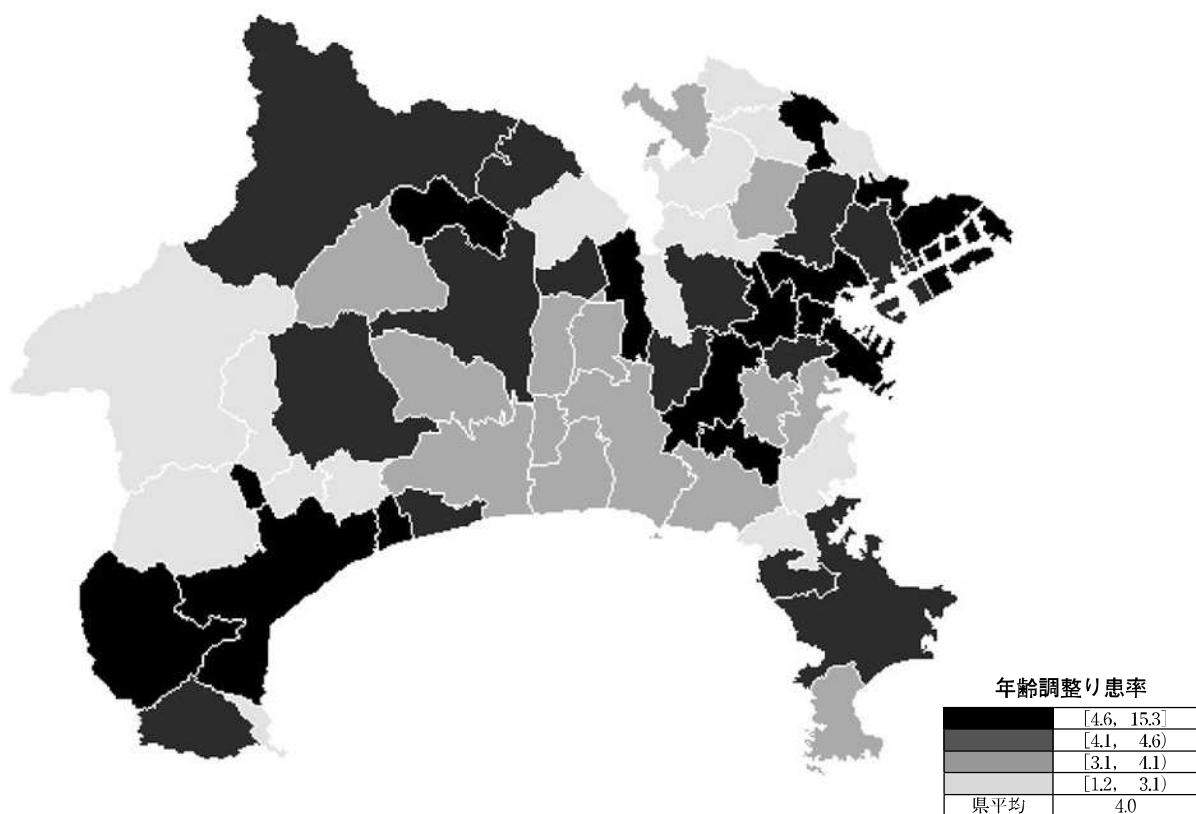


図11－8 肝・肝内胆管（女）（平成28－29年）

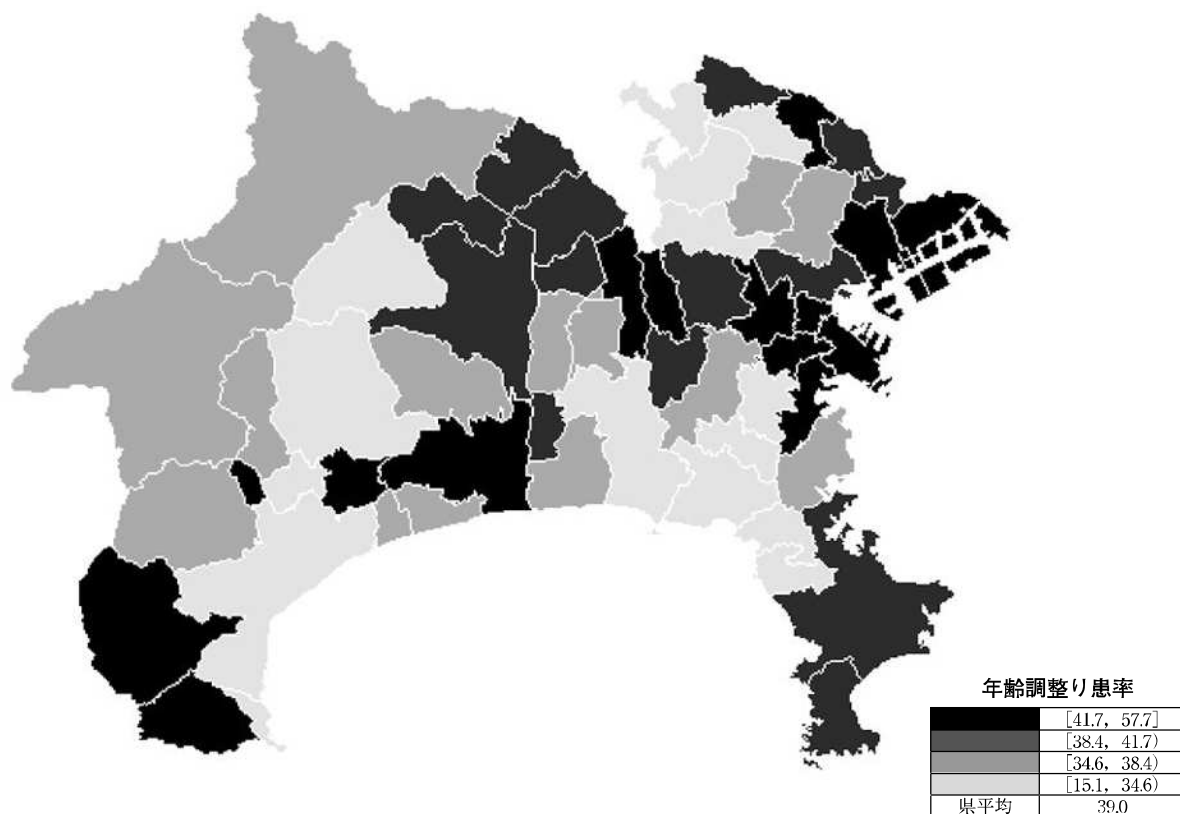


図11-9 肺（男）（平成28-29年）

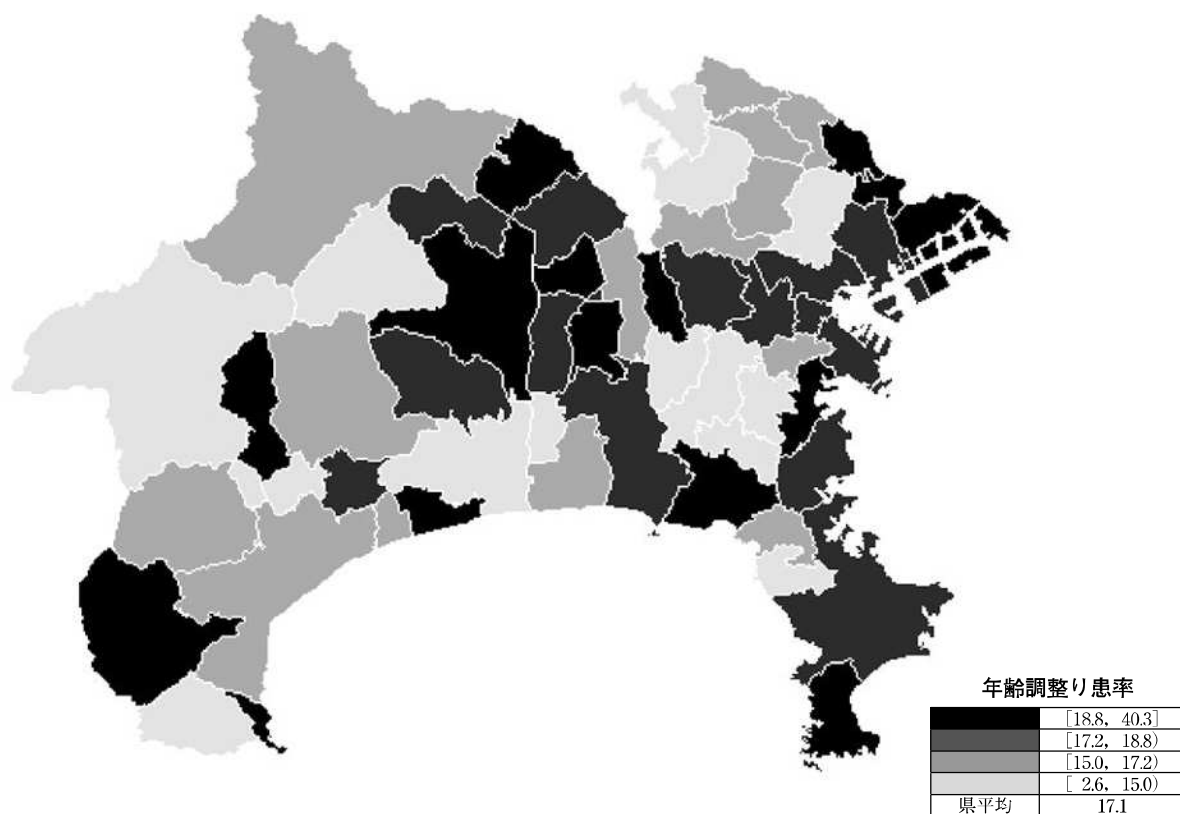


図11-10 肺（女）（平成28-29年）

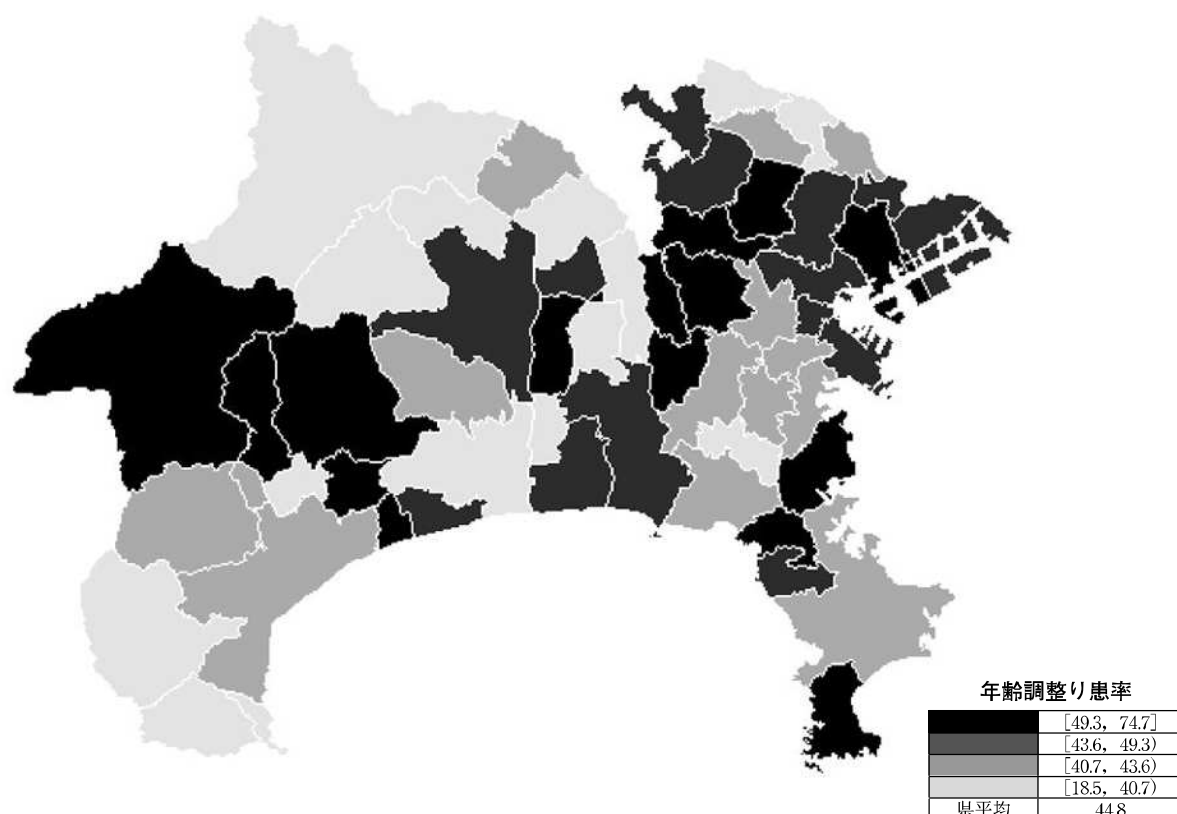


図11-11 前立腺（男）（平成28-29年）

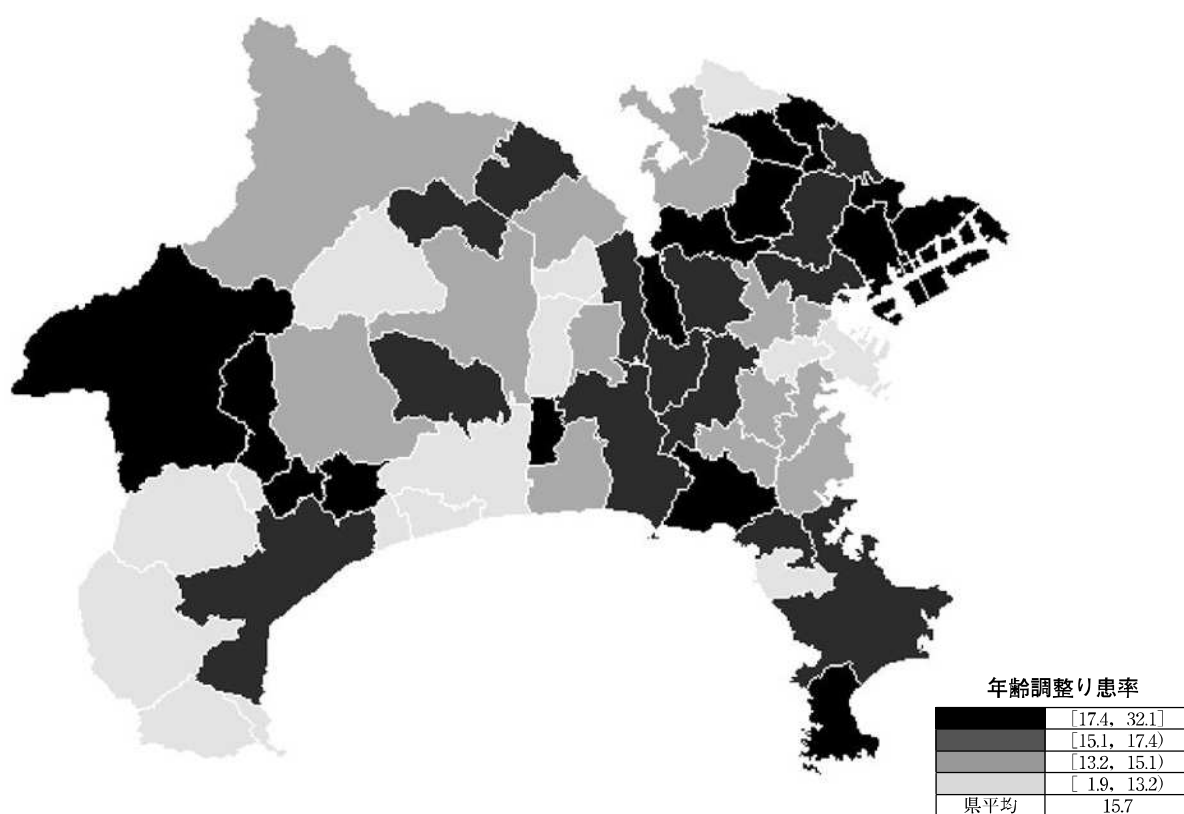


図11-12 膀胱（男）（平成28-29年）

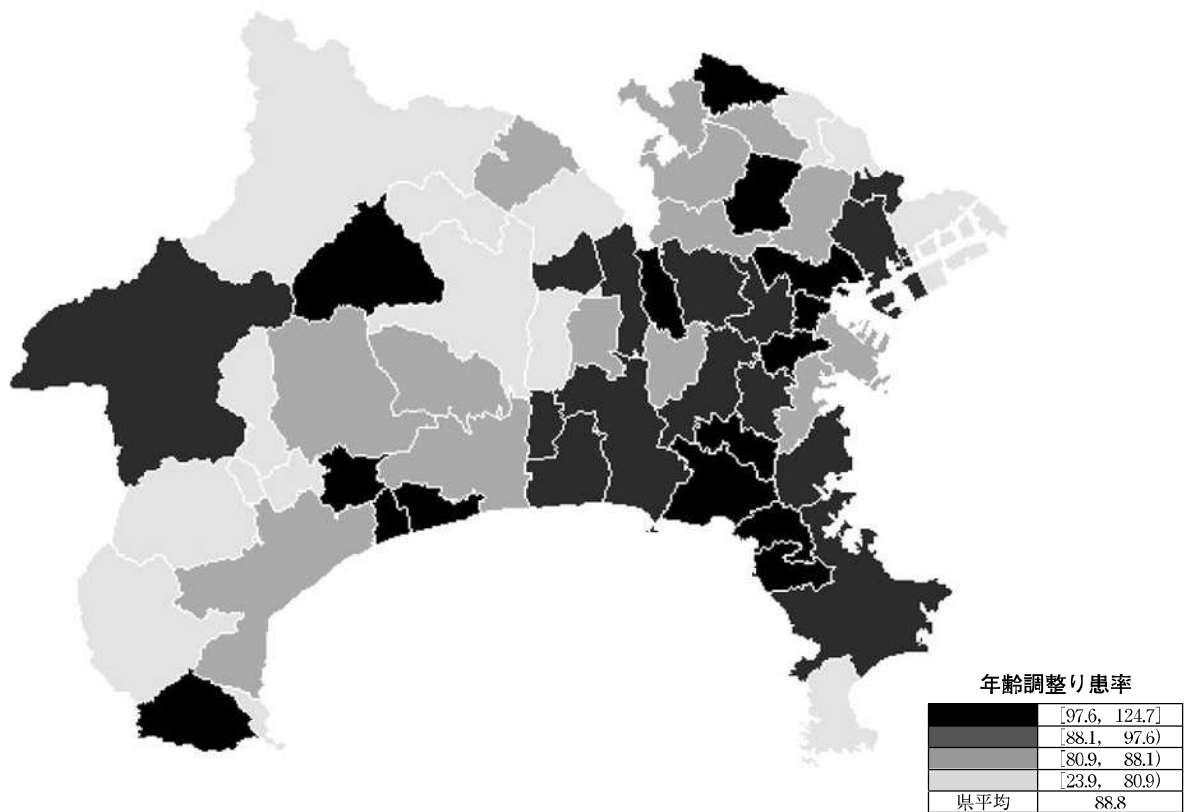


図11-13 乳房（女）（平成28-29年）

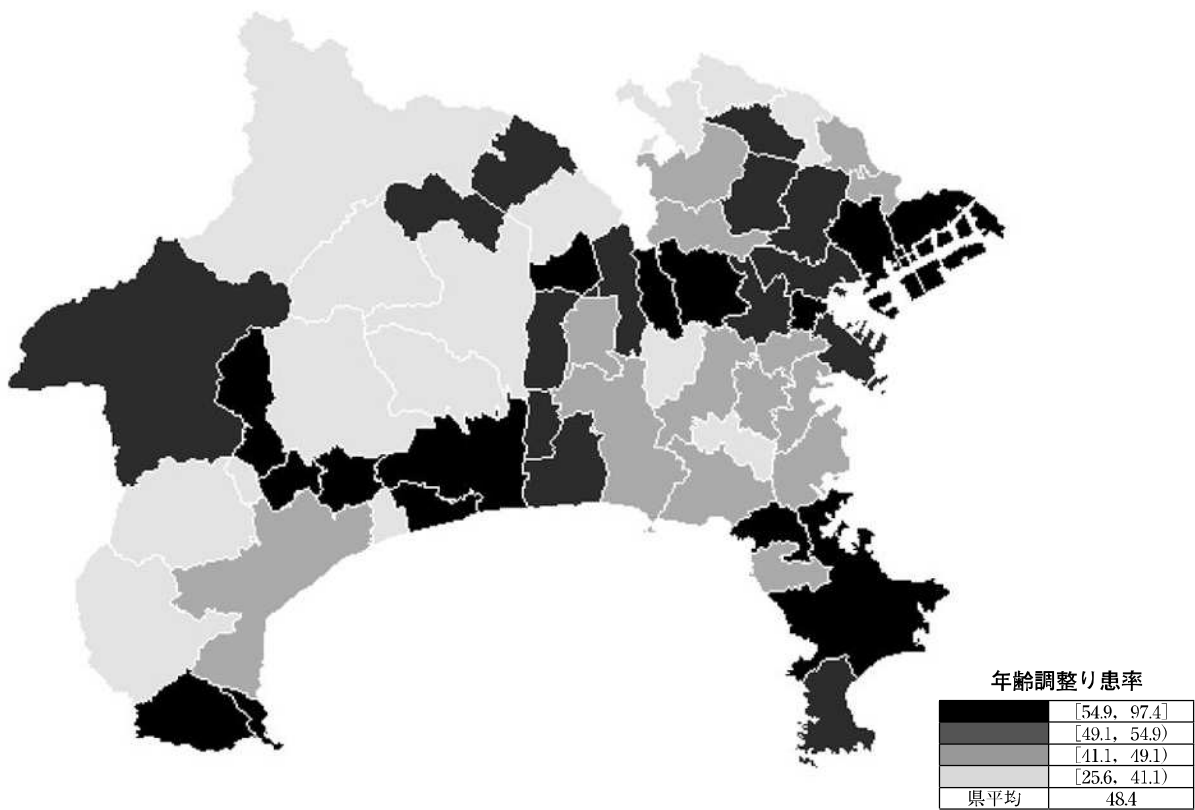


図11-14 子宮（女）（平成28-29年）

3. 経年の観察

(1) 年齢調整り患率（人口10万対）の年次推移

がんのり患の状況について、神奈川県悪性新生物登録事業が発足した昭和45年から今回集計した平成29年までを、り患の多い部位について経年的に図示した（図12）。部位別にみると胃のり患率の減少がみられている。胃では男女それぞれ昭和45年のり患率は86.6、48.4であったが、平成29年は44.7、16.1に減少している（付表25）。逆に、増加傾向を示している部位は、男では肺、結腸、直腸、前立腺、女では乳房、子宮、結腸、肺、直腸であった（付表25）。

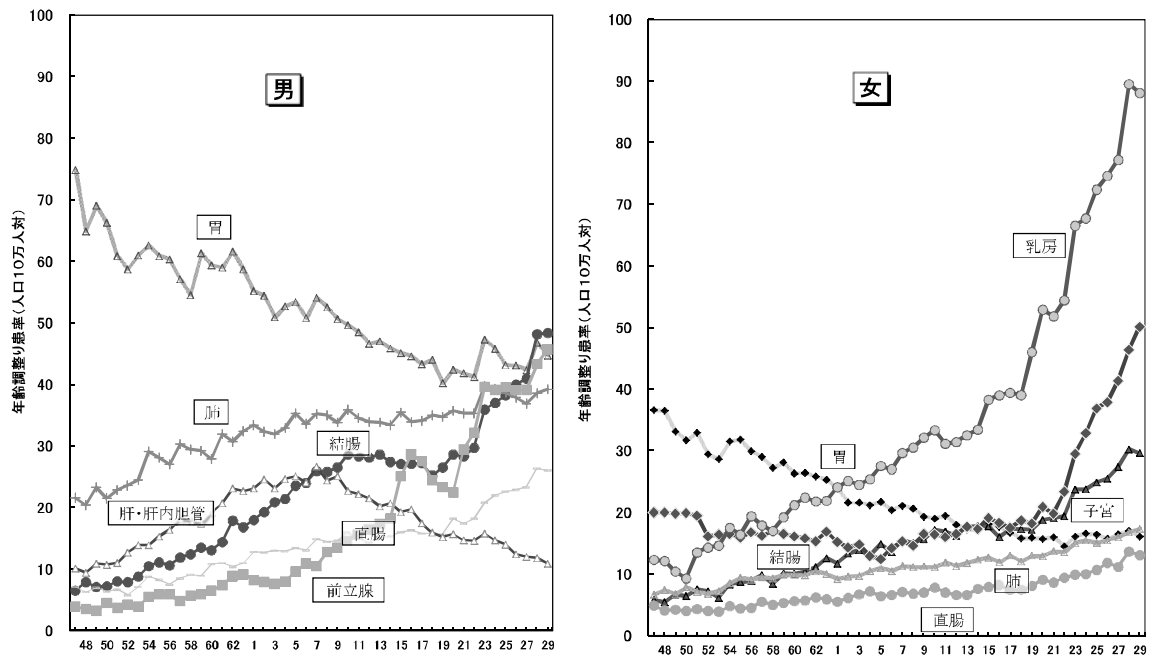


図12 年齢調整り患率の年次推移

(2) 年齢階級別のがんり患率の年次推移

昭和57年から平成29年までの35年間を12の期間（昭和57～59年、昭和60～62年、昭和63～平成2年、平成3～5年、平成6～8年、平成9～11年、平成12～14年、平成15～17年、平成18～20年、平成21～23年、平成24～26年、平成27～29年）に分けて計算した。年齢階級は0～14歳、15～39歳、40～64歳、65歳以上の4グループに分けて年次変化をみた（図13）。

部位別では胃や肝・肝内胆管で男女の減少がみられるが、逆に男女の口腔・咽頭、結腸、直腸、肺、前立腺、膀胱、乳房、卵巣、皮膚に増加がみられ、また、子宮の15～39歳でも増加の傾向がみられている。年齢階級別にみると、り患率が高いのは65歳以上の世代であるが、乳房および子宮においてり患率が高いのは40～64歳の世代である。

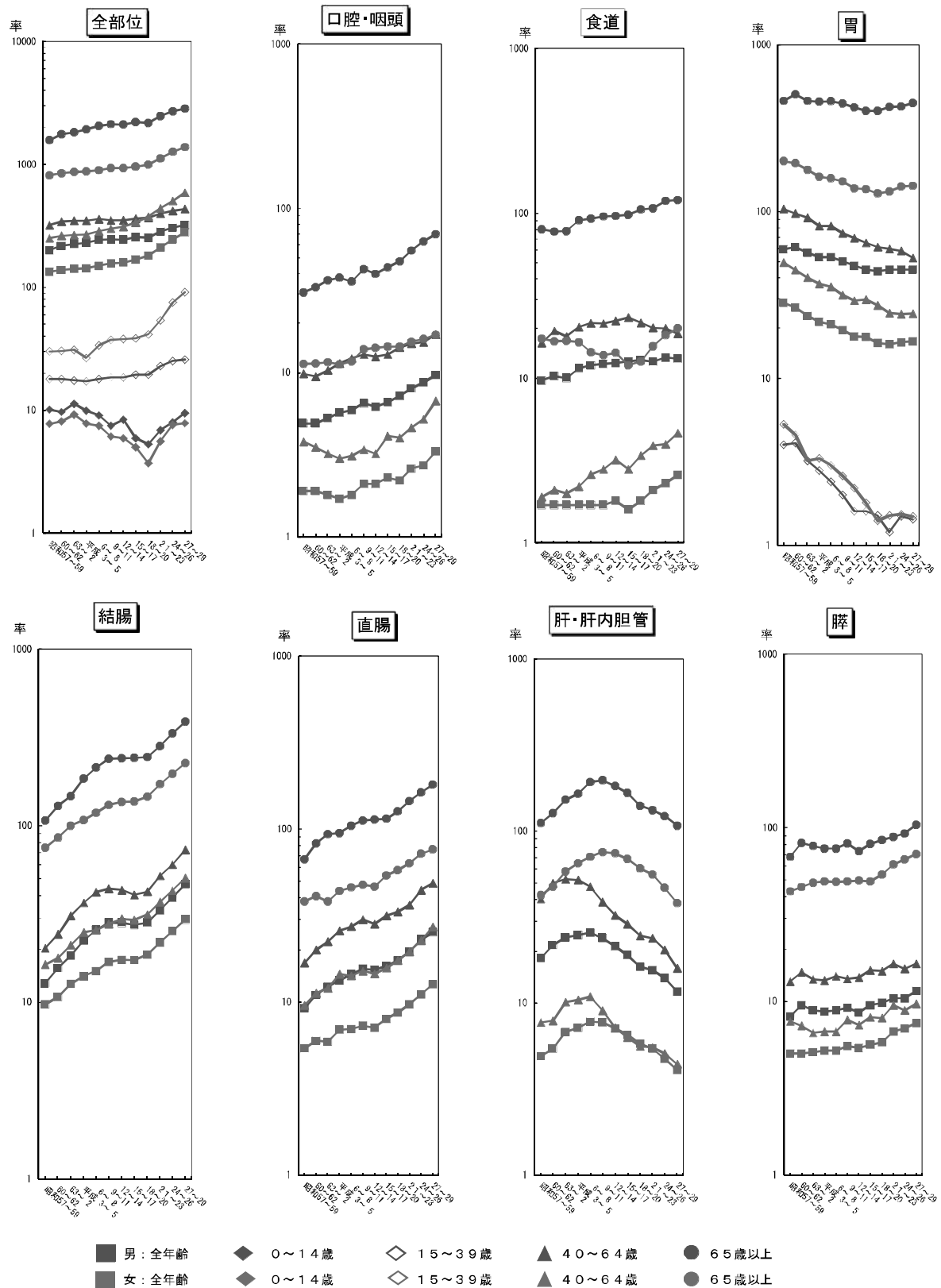


図13-1 主要部位別 年齢階級別年齢調整り患率の比較

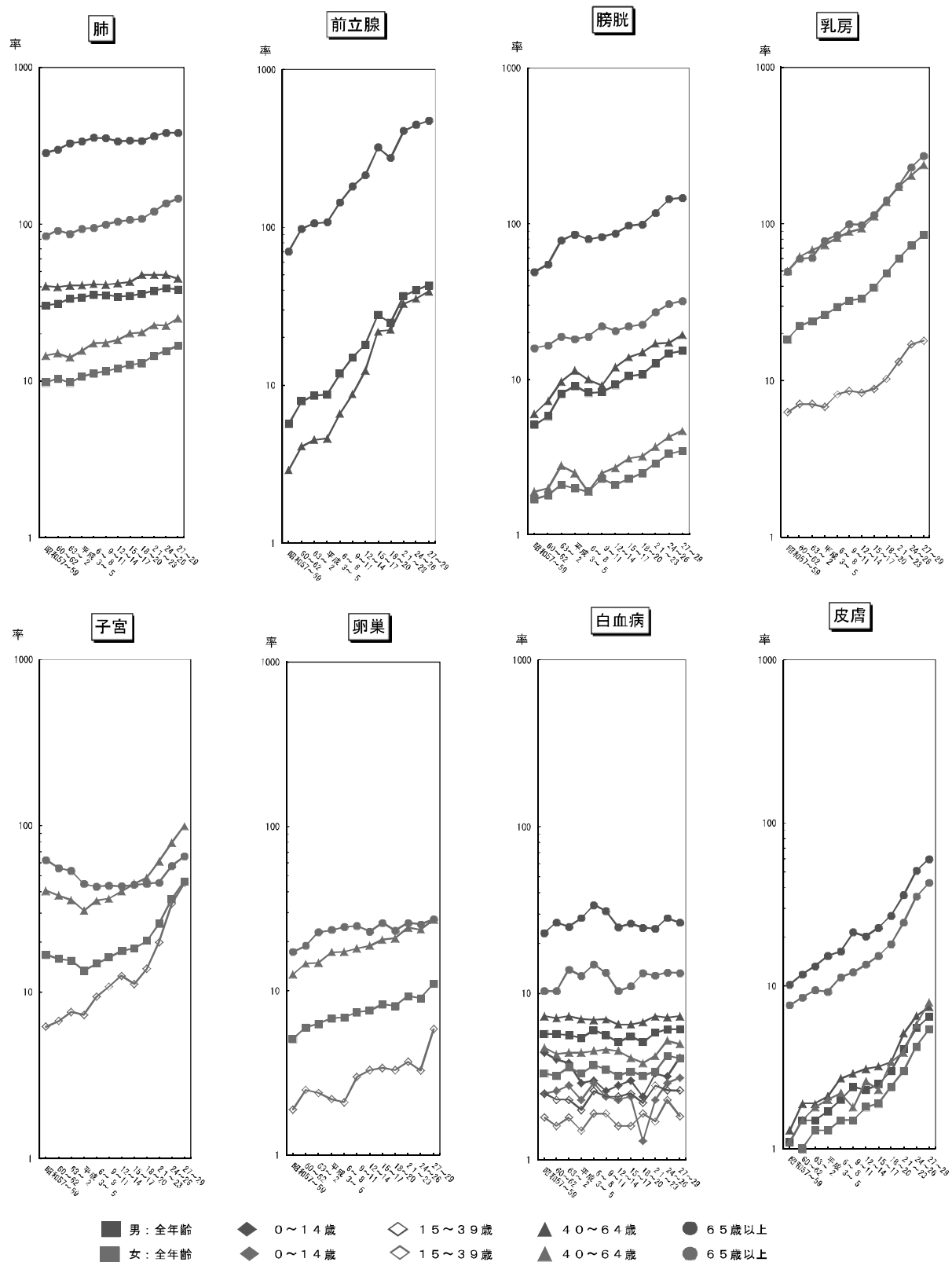


図13-2 主要部位別 年齢階級別年齢調整り患率の比較

(3) 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の年次推移

全部位と対策型がん検診が実施されている中で、胃、肺、乳房、子宮の部位について、全年齢、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上の年齢階級別の人口10万対の年齢調整り患率、年齢調整死亡率を経年的に図示した（図14）。

この図及び付表23より、り患率と死亡率の差（開き）が経年的に大きくなっていることが観察される。また、高齢となるにしたがってり患率と死亡率の差（開き）が小さくなっている。

部位別にみると、胃はり患率、死亡率ともに減少傾向を示している。肺、乳房のがんは上昇している。また、年齢階級別にみると、胃、肺は高齢となるに従ってり患率も高くなっているが、乳房、子宮は各世代によるり患率の変化はみられない。

肺はり患率と死亡率の差（開き）が高齢となるに従って小さくなっている。

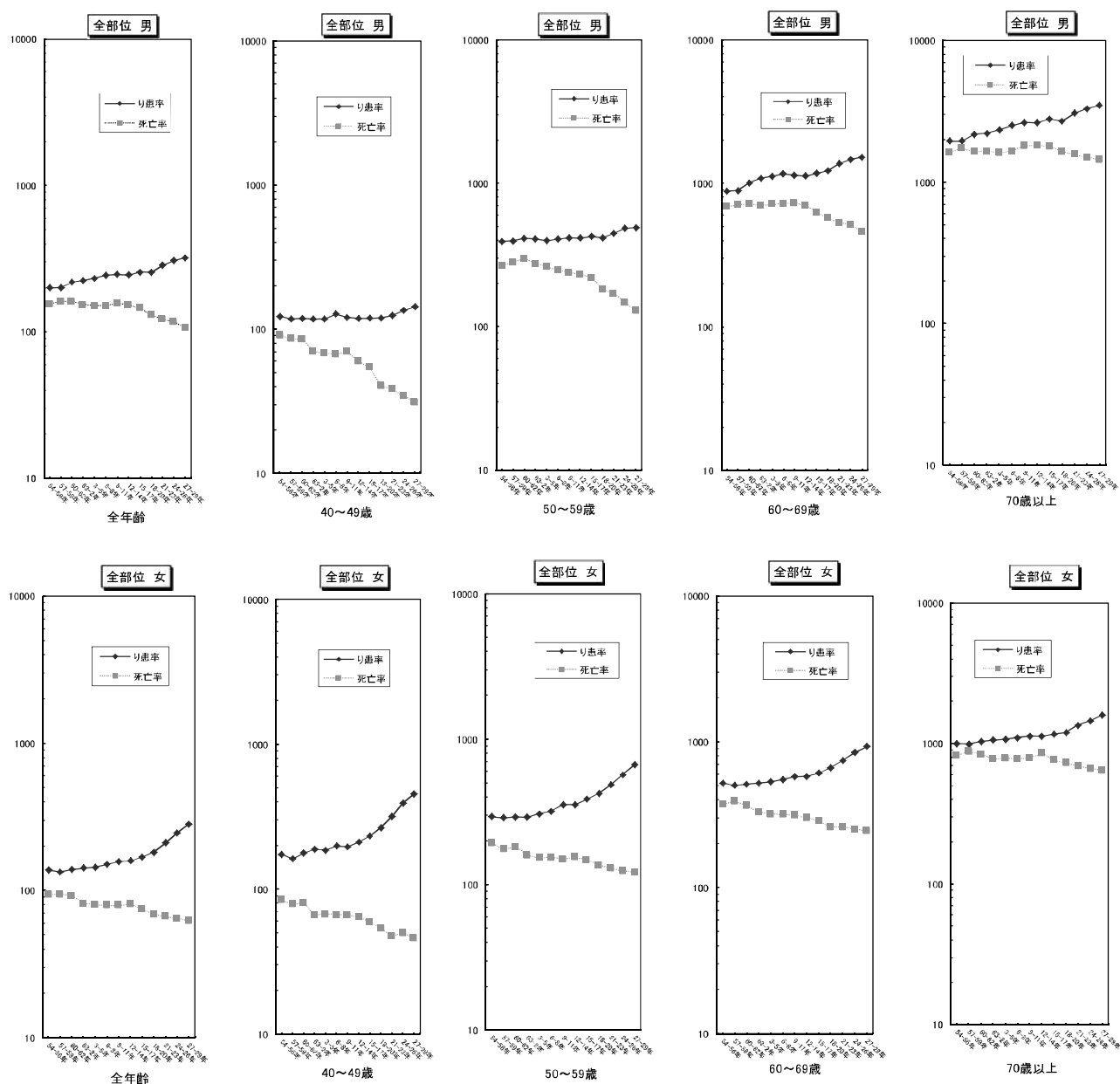


図14-1 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

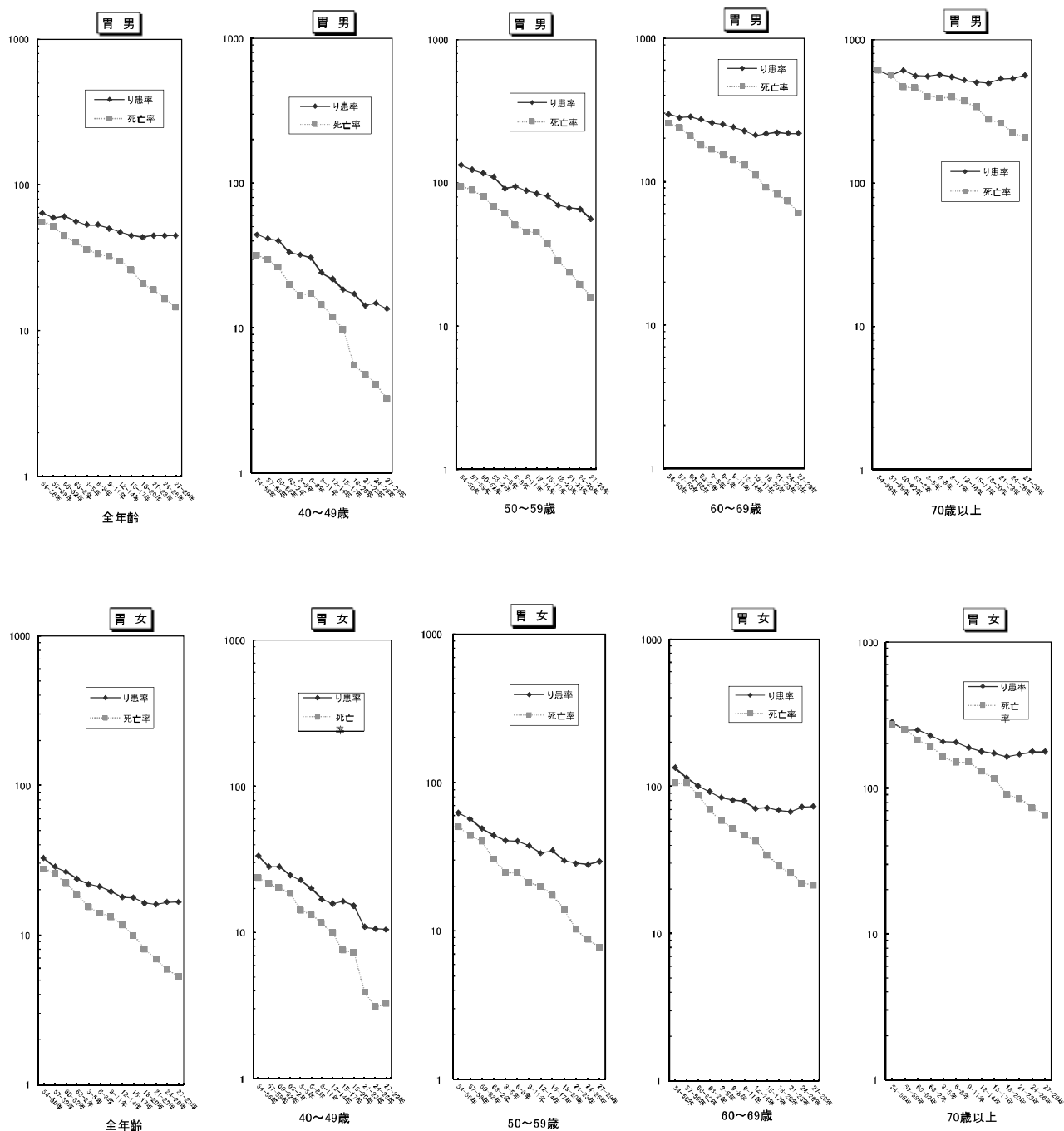


図14ー2 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

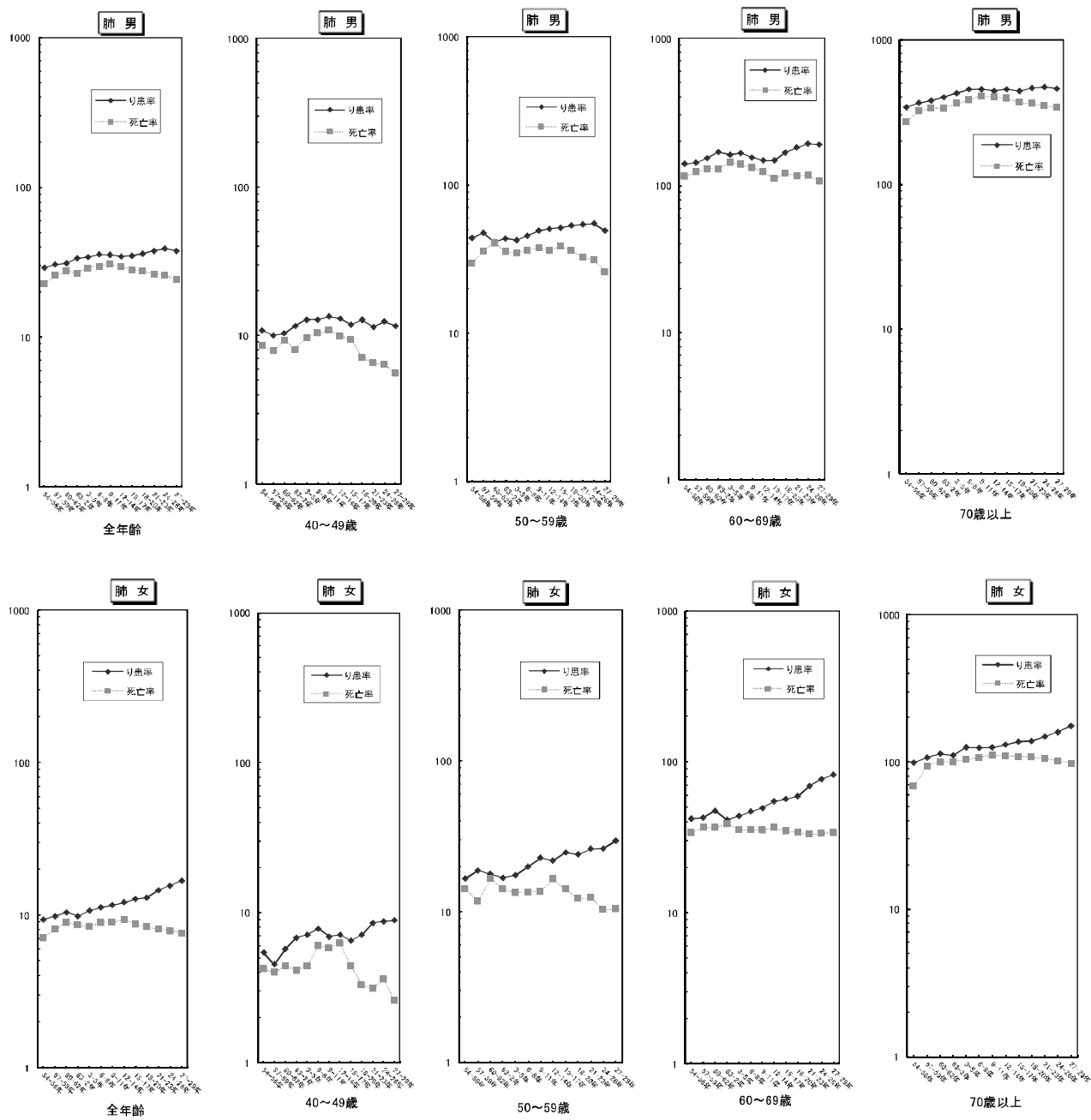


図14-3 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

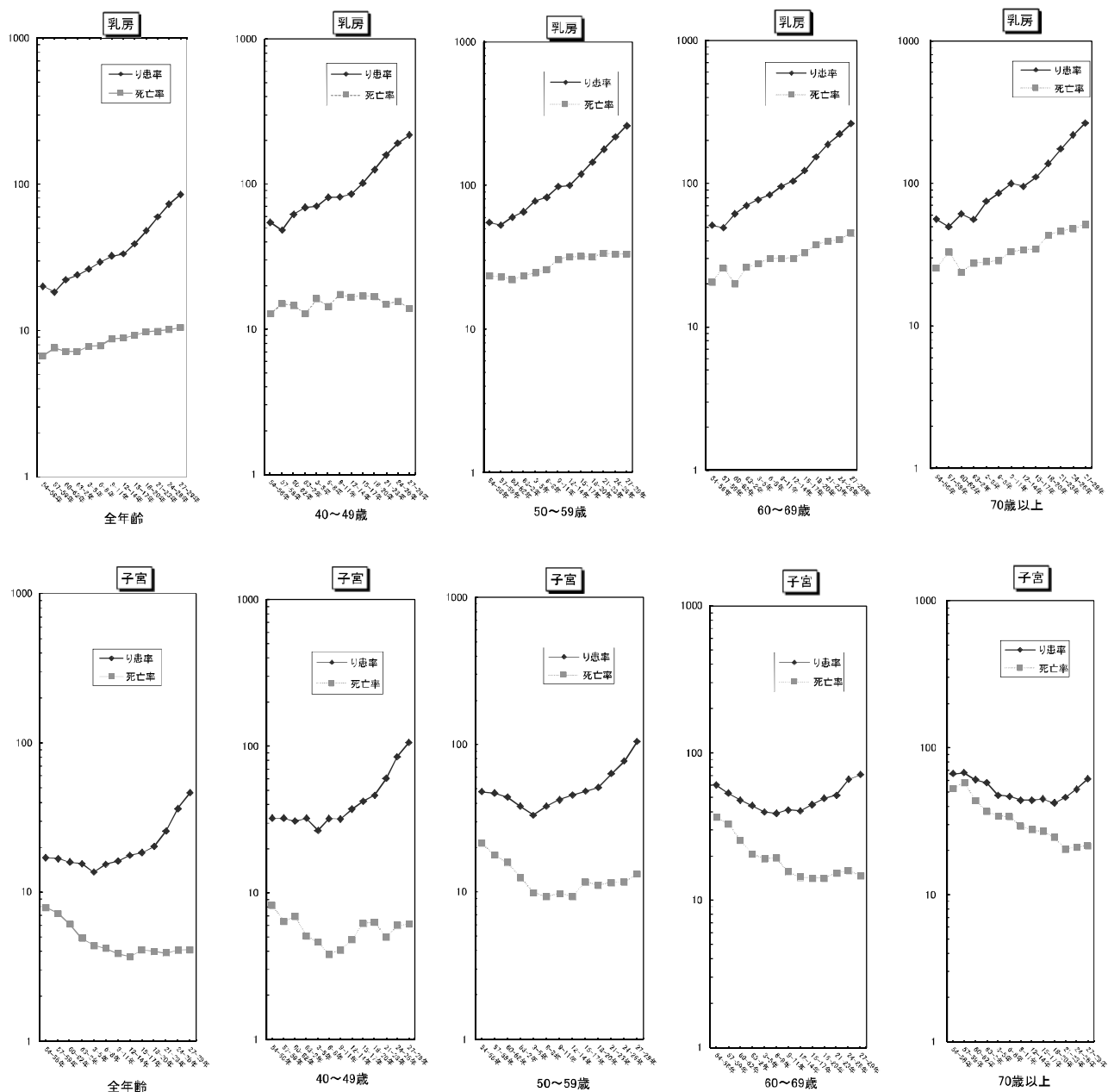


図14-4 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

4. 登録の精度（届出と診断の精度）

地域がん登録（神奈川県悪性新生物登録事業）では、県下の各医療機関からの届出票と、死亡票からの届出漏れ患者の登録により、り患数を算定している。この算定されたり患数が、当該地域の真のり患数をどの程度反映しているかを示す指標の一つとして、り患数に対する死亡票からのみ登録された患者の割合（以下「死亡票のみの割合」という。）が用いられている。また、届出された資料の診断の精度の指標として、届出り患数またはり患数に対して、診断方法としての組織診断が実施された患者数の割合（以下「組織診の割合」という。）が用いられている。死亡票の割合が低いほど「地域がん登録」で算出した、り患率の信頼性が高く、組織診の割合が高いほど診断の精度が高くなる。

平成29年の登録の精度は、死亡票のみの割合が5.2%であり、組織診の割合（届出り患数に対する）は91.8%であった（表6-1）。平成28年の精度と比較すると、死亡票のみの割合は6.4%から5.2%へと良くなった。組織診・細胞診の割合は91.9%から91.8%となった。なお、過去5年間をみると、死亡票のみの割合は良くなりつつある。地域がん登録の目標として、死亡票のみの割合を20%以下にすることが望まれているが、神奈川県では平成22年より20%以下となり、平成25年には県下全域で達成した。

県下では、最も精度が高い地域が湘南西部（4.1%）、次いで県央（4.2%）、横浜南部（4.4%）、湘南東部（4.4%）と続く。

登録の精度を主要部位別にみると、死亡票のみの割合が低い部位は皮膚1.3%、子宮1.3%、甲状腺2.5%、乳房2.6%、前立腺2.6%であり、組織診の割合が高い部位も皮膚99.0%であった。

逆に、死亡票のみの割合が高いのは脳18.0%、骨15.9%、肝・肝内胆管13.2%、白血病9.9%であり、組織診・細胞診の割合が低いのは、肝・肝内胆管36.9%であった（表6、図15）。

二次保健医療圏別にみると、死亡票のみの割合が低いのは湘南西部4.1%、県央4.2%、横浜南部4.4%、湘南東部4.4%であり届出の精度は非常に良くなってきた。逆にこの割合が高かったのは県西9.5%であった。組織診・細胞診の割合は全地域91.8%と良好で、とりわけ横浜南部が92.9%、川崎北部92.5%、湘南東部92.1%と良好である（表6-2）。市区町村別は図16及び付表10、11に示した。なお、地域別の精度の違いを検討する際には、患者の居住地域と診断・届出医療機関の所在地域とが異なる場合があることを注意しておく必要がある。

表 6 登録の精度（届出と診断の精度）

1.主要部位別

部 位	ICD-10	平成29年					
		り患数 (I)	届出り患数 (R)	死亡票のみ の数 (D)	組織診・細胞 診の実施数 (H)	(I)に対する死亡票 のみの割合 (D/I) (%)	(R)に対する組織診・ 細胞診の割合 (H/R) (%)
全部位	C00-C96・D06	69,698	66,081	3,617	60,682	5.2	91.8
口腔・咽頭	C00-C14	1,432	1,381	51	1,332	3.6	96.5
食道	C15	1,930	1,861	69	1,804	3.6	96.9
胃	C16	8,250	7,840	410	7,674	5.0	97.9
結腸	C18	9,673	9,278	395	8,891	4.1	95.8
直腸	C19-C20	4,175	4,014	161	3,920	3.9	97.7
肝・肝内胆管	C22	2,062	1,789	273	661	13.2	36.9
胆のう・胆管	C23-C24	1,358	1,231	127	937	9.4	76.1
膵	C25	2,709	2,465	244	1,674	9.0	67.9
喉頭	C32	316	305	11	297	3.5	97.4
肺	C33-C34	7,632	6,978	654	5,887	8.6	84.4
骨	C40-C41	63	53	10	50	15.9	94.3
皮膚	C43-C44	1,674	1,652	22	1,636	1.3	99.0
乳房	C50	7,497	7,301	196	7,167	2.6	98.2
子宮	C53-C55・D06	3,216	3,173	43	3,136	1.3	98.8
卵巣	C56	903	862	41	825	4.5	95.7
前立腺	C61	6,103	5,942	161	5,570	2.6	93.7
腎	C64	1,208	1,155	53	992	4.4	85.9
膀胱	C67	2,573	2,487	86	2,410	3.3	96.9
脳	C71	316	259	57	216	18.0	83.4
甲状腺	C73	787	767	20	753	2.5	98.2
白血病	C91-C95	835	752	83	738	9.9	98.1

2.二次保健医療圏別

地 域	り患数 (I)	届出り患数 (R)	死亡票のみ の数 (D)	組織診・細胞 診の実施数 (H)	(I)に対する死亡票 のみの割合 (D/I) (%)	(R)に対する組織 診・細胞診の割合 (H/R) (%)
神 奈 川 県	69,698	66,081	3,617	60,682	5.2	91.8
横 浜 市	28,586	27,278	1,308	25,145	4.6	92.2
横 浜 北 部	10,665	10,184	481	9,360	4.5	91.9
横 浜 西 部	8,880	8,455	425	7,762	4.8	91.8
横 浜 南 部	9,041	8,639	402	8,023	4.4	92.9
川 崎 市	9,767	9,080	687	8,325	7.0	91.7
川 崎 北 部	5,126	4,720	406	4,368	7.9	92.5
川 崎 南 部	4,641	4,360	281	3,957	6.1	90.8
横 須 賀・三 浦	6,802	6,495	307	5,954	4.5	91.7
湘 南 東 部	5,417	5,180	237	4,773	4.4	92.1
湘 南 西 部	4,699	4,507	192	4,115	4.1	91.3
県 央	6,440	6,171	269	5,651	4.2	91.6
相 模 原	5,141	4,795	346	4,396	6.7	91.7
県 西	2,846	2,575	271	2,323	9.5	90.2

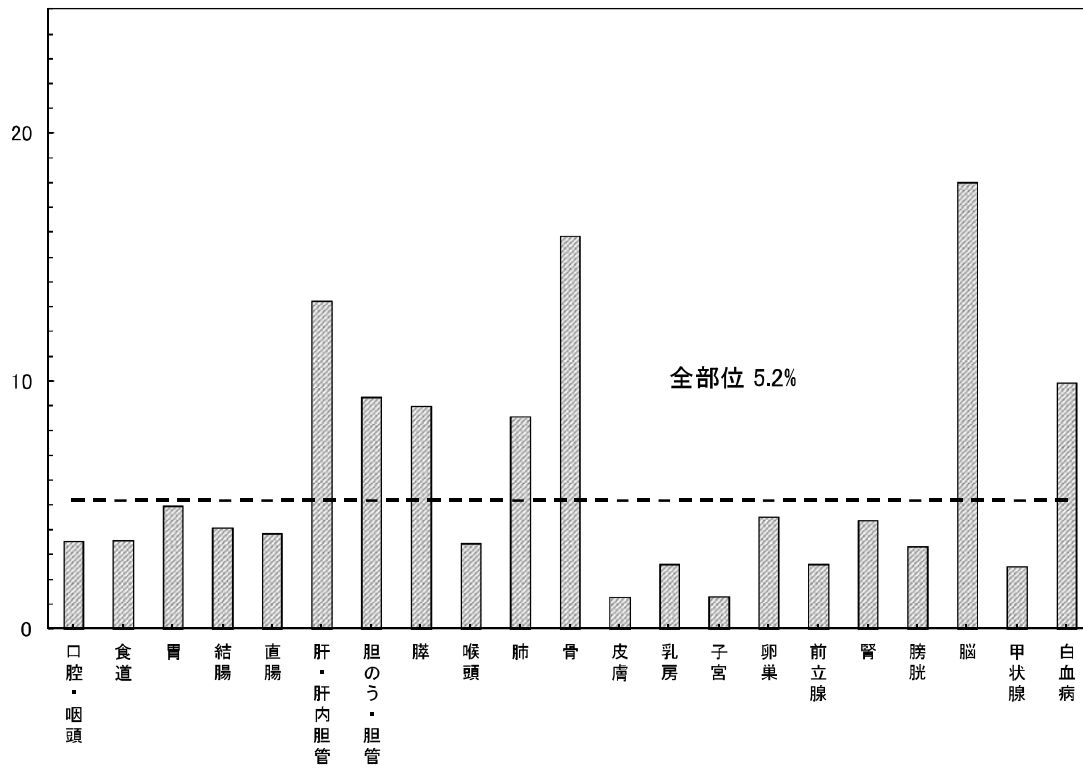


図15 り患数に対する死亡小票のみの割合（部位別） —平成29年—

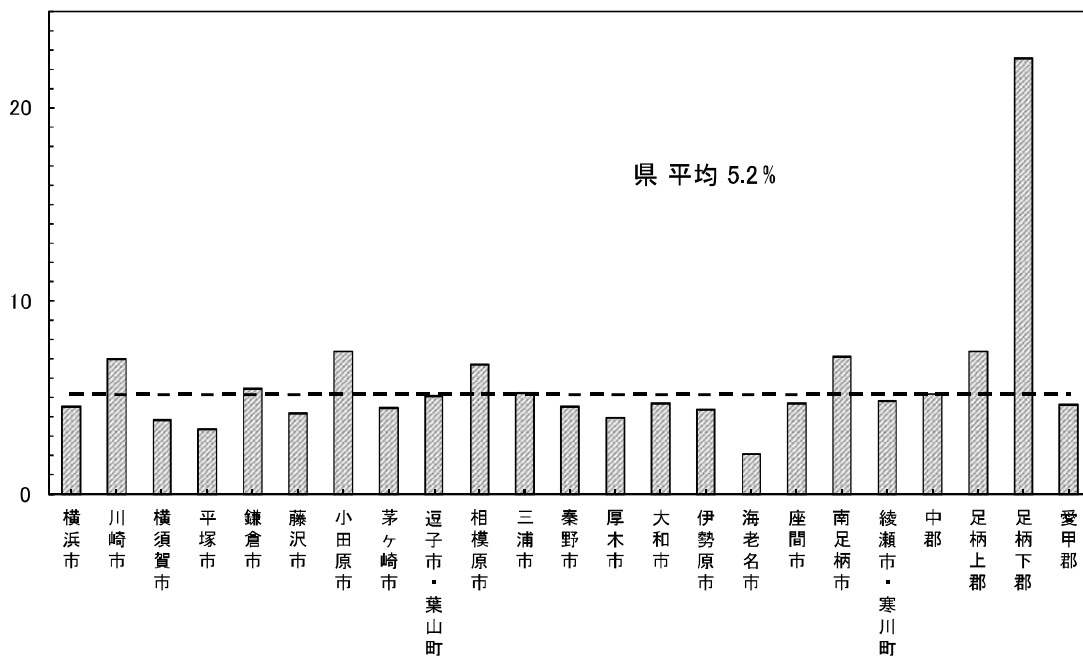


図16 り患数に対する死亡小票のみの割合（市町村別） —平成29年—

5. 受診の動機

(1) 検診で発見されたがん

検診で発見され受診した患者は、届出された66,081人中11,891人（18.0%）であった。検診経由の者を主要部位別にみたものが表7である。

対策型がん検診としておこなわれている部位で、胃がん検診、大腸がん（結腸・直腸）検診、肺がん検診、乳がん検診、子宮がん（頸部）検診において発見されたがんの割合を図17に示した。検診で発見されたがんの数が最も多いのは大腸がんであり、3,052人であった。

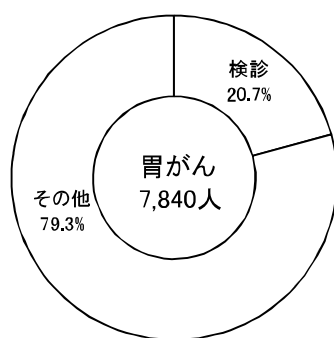
二次保健医療圏別にこれらをみたものが表8である。各地域ともに、検診経由の割合の高いものは子宮頸がんである。地域間の比較をする場合には、各地域の届出状況、検診実施状況とを併せてみる必要がある。

表7 部位別にみた検診経由患者数とその割合（主要部位）

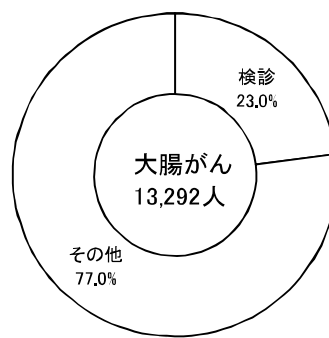
1.主要部位別		平成29年		
部 位	ICD-10	届出患者数(人)	検診経由(人)	検診割合(%)
全部位	C00-C96・D06	66,081	11,891	18.0
口腔・咽頭	C00-C14	1,381	22	1.6
食道	C15	1,861	252	13.5
胃	C16	7,840	1,623	20.7
結腸	C18	9,278	2,108	22.7
直腸	C19-C20	4,014	944	23.5
肝・肝内胆管	C22	1,789	82	4.6
胆のう・胆管	C23-C24	1,231	49	4.0
膵	C25	2,465	107	4.3
喉頭	C32	305	8	2.6
肺	C33-C34	6,978	1,232	17.7
骨	C40-C41	53	3	5.7
皮膚	C43-C44	1,652	4	0.2
乳房	C50	7,301	2,067	28.3
子宮頸部	C53・D06	2,062	696	33.8
子宮体部	C54	1,097	114	10.4
卵巣	C56	862	64	7.4
前立腺	C61	5,942	1,760	29.6
腎	C64	1,155	173	15.0
膀胱	C67	2,487	118	4.7
脳	C71	259	5	1.9
甲状腺	C73	767	137	17.9
白血病	C91-C95	752	75	10.0

表8 二次医療圏別にみた検診経由数とその割合（胃・大腸・肺・乳房・子宮頸部）

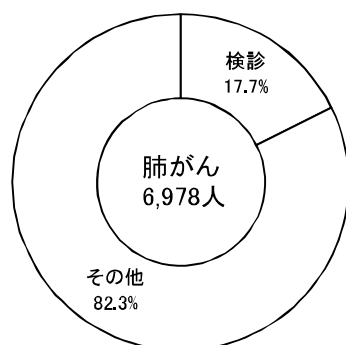
地 域	届出患者数 (R)	集検経由 数	胃			大腸(結腸・直腸)			肺			乳房			子宮頸部		
			届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%
神奈川県	66,081	11,891	7,840	1,623	20.7	13,292	3,052	23.0	6,978	1,232	17.7	7,301	2,067	28.3	2,062	696	33.8
横浜市	27,278	4,533	3,102	537	17.3	5,479	1,137	20.8	2,856	431	15.1	3,084	884	28.7	838	244	29.1
横浜北部	10,184	1,780	1,038	165	15.9	1,978	413	20.9	1,023	149	14.6	1,227	383	31.2	418	123	29.4
横浜西部	8,455	1,362	1,002	178	17.8	1,682	332	19.7	899	152	16.9	938	264	28.1	219	67	30.6
横浜南部	8,639	1,391	1,062	194	18.3	1,819	392	21.6	934	130	13.9	919	237	25.8	201	54	26.9
川崎市	9,080	1,655	1,095	261	23.8	1,869	457	24.5	959	178	18.6	1,051	282	26.8	358	148	41.3
川崎北部	4,720	921	539	136	25.2	937	235	25.1	473	97	20.5	606	170	28.1	190	79	41.6
川崎南部	4,360	734	556	125	22.5	932	222	23.8	486	81	16.7	445	112	25.2	168	69	41.1
横須賀・三浦	6,495	1,147	703	126	17.9	1,344	370	27.5	677	121	17.9	688	169	24.6	166	49	29.5
湘南東部	5,180	1,046	629	128	20.3	949	253	26.7	492	119	24.2	623	193	31.0	160	58	36.3
湘南西部	4,507	765	550	109	19.8	912	187	20.5	478	93	19.5	449	110	24.5	156	53	34.0
県 央	6,171	1,232	765	210	27.5	1,225	263	21.5	680	123	18.1	653	185	28.3	165	58	35.2
相 模 原	4,795	987	641	200	31.2	993	265	26.7	572	103	18.0	495	163	32.9	150	46	30.7
県 西	2,575	526	355	52	14.6	521	120	23.0	264	64	24.2	258	81	31.4	69	40	58.0



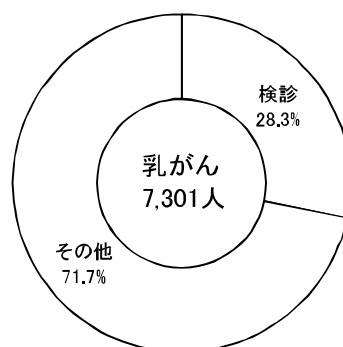
胃		人
検診	1,623	
その他	6,217	
合計	7,840	



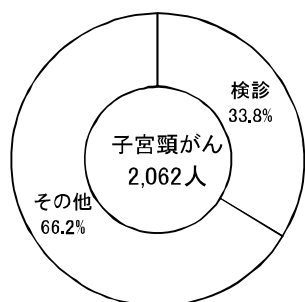
大腸		人
検診	3,052	
その他	10,240	
合計	13,292	



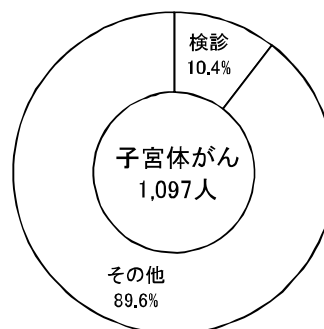
肺		人
検診	1,232	
その他	5,746	
合計	6,978	



乳房		人
検診	2,067	
その他	5,234	
合計	7,301	



子宮頸		人
検診	696	
その他	1,366	
合計	2,062	



子宮体部		人
検診	114	
その他	983	
合計	1,097	

図17 検診で発見されたがん 一届出し患者数— 平成29年

6. 診断・治療の状況（部位・地域・病院規模）

(1) 診断方法

地域がん登録（悪性新生物登録事業）では、がんの診断方法（X線、内視鏡、細胞診、組織診、病理解剖、画像診断）について調査している。

死亡票のみの者の診断方法や治療方法は明確でない場合が多いため、届出り患者66,081人を対象として調査した。

主要部位別および地域別の診断方法について集計したものが（付表12）である。組織診でがんと確かめられた患者は、届出り患者のうち89.7%であった。次いで画像診断、細胞診、内視鏡、X線診断の割合で高かった。剖検（病理解剖）による確認は平成28年と同様に0.6%であった。組織診の割合の低いものは肝・肝内胆管35.6%、膵58.4%である。剖検（病理解剖）の割合が高いものは、脳2.3%、白血病1.7%であった。

組織診では皮膚が99.3%、胃97.9%、乳房・子宮がともに97.8%と高い割合を示している。

市区町村・性別の組織診・細胞診の割合は（付表11）にのせた。男が91.4%、女が92.4%で、実施率は女の方が高かった。

(2) 治療の状況

届出された患者がどのような治療を受けたのか表9に主要部位別・二次保健医療圏別に示した。治療内容は、手術療法、放射線療法、化学療法とこれらの併用療法、体腔鏡的切除、内視鏡的切除、対症療法とに分類した。

手術のみ受けた患者は、届出された患者の29.7%であった。これを主要部位でみると、皮膚89.3%、甲状腺81.0%、乳房80.7%、卵巣78.3%の割合で高い。放射線療法は喉頭58.5%、脳57.9%、乳房34.8%、口腔・咽頭31.1%が高く、化学療法で最も高いのは白血病71.8%である。

併用療法では、化学療法と手術療法の併用療法が届出された患者の6.5%を占めている。主要部位で最も割合が高いのは卵巣49.5%であった。

また、二次保健医療圏別に観察すると、手術を受けた患者の割合は県西34.4%で最も高かった。

表9 治療の状況（届出り患者に対する割合）（％）

1.主要部位別

平成29年

部 位	ICD-10	届出り患者数	手術療法 計(S)	放射線治 療(R)	化学療法 (C)	手術+放射 線療法(S +R)のみ	手術+化学 療法(S+ C)のみ	放射線+ 化学療法 (R+C)の み	手術+放射 線+化学療 法(S+R+C のみ)	体腔鏡 的切除	内視鏡 的切除	対症 療法	治療 不明
全部位	C00-C96・D06	66,081	29.7	11.0	25.4	3.3	6.5	2.6	1.5	16.7	16.2	11.7	-
口腔・咽頭	C00-C14	1,381	45.8	31.1	27.9	4.5	3.3	17.2	3.2	-	5.1	13.3	-
食道	C15	1,861	11.0	23.4	31.5	0.4	5.1	16.1	0.8	8.5	31.1	13.4	-
胃	C16	7,840	23.3	0.5	18.6	0.1	8.4	0.2	0.0	15.6	35.3	8.9	-
結腸	C18	9,278	20.7	0.1	18.4	-	6.3	0.1	0.0	32.3	37.3	6.5	-
直腸	C19-C20	4,014	17.9	4.7	24.7	0.2	5.5	2.9	1.2	36.8	32.6	8.2	-
肝・肝内胆管	C22	1,789	15.8	4.6	29.0	-	1.9	1.1	-	4.1	0.3	46.3	-
胆のう・胆管	C23-C24	1,231	33.9	1.9	24.1	0.2	7.5	0.7	0.4	4.6	0.3	28.9	-
膵	C25	2,465	23.4	3.0	47.3	0.1	12.9	1.5	0.7	1.1	0.2	29.1	-
喉頭	C32	305	21.2	58.5	20.9	4.9	0.3	17.0	1.6	1.0	13.7	12.8	-
肺	C33-C34	6,978	6.0	14.7	36.5	0.2	1.8	7.2	0.6	29.4	0.2	17.0	-
骨	C40-C41	53	55.6	9.3	31.5	1.9	20.4	1.9	-	-	-	11.1	-
皮膚	C43-C44	1,652	89.3	1.5	1.5	0.5	0.4	0.2	0.1	0.3	0.1	5.5	-
乳房	C50	7,301	80.7	34.8	27.3	25.7	13.3	0.3	8.3	0.2	0.1	2.9	0.0
子宮	C53-C55・D06	3,173	66.8	9.2	19.3	1.1	10.8	4.4	1.5	13.8	1.8	4.9	-
卵巣	C56	862	78.3	0.5	56.0	0.2	49.5	-	0.2	8.8	-	6.3	-
前立腺	C61	5,942	3.2	20.4	1.7	0.2	0.1	0.2	-	22.2	1.4	6.6	-
腎	C64	1,155	21.0	1.4	8.8	-	1.8	0.6	0.3	55.7	0.4	7.4	-
膀胱	C67	2,487	8.1	3.3	42.8	0.1	3.7	1.3	0.1	3.0	86.4	19.4	-
脳	C71	259	67.2	57.9	53.7	6.2	4.3	5.8	42.9	-	-	8.1	-
甲状腺	C73	767	81.0	7.8	2.0	7.4	0.8	0.1	0.3	0.4	-	4.6	-
白血病	C91-C95	752	0.1	5.3	71.8	-	-	5.2	-	-	-	30.2	-

2.二次保健医療圏別

地 域	届出り患者数	手術療法 計(S)	放射線治 療(R)	化学療法 (C)	手術+放射 線療法(S +R)のみ	手術+化学 療法(S+ C)のみ	放射線+ 化学療法 (R+C)の み	手術+放射 線+化学療 法(S+R+C のみ)	体腔鏡 的切除	内視鏡 的切除	対症 療法	治療 不明
神奈川県	66,081	29.6	11.0	25.5	3.3	6.5	2.6	1.5	16.7	16.1	11.7	-
横浜市	27,278	29.4	11.1	25.3	3.5	6.3	2.4	1.4	17.1	16.2	10.2	-
横浜北部	10,184	29.2	11.1	25.2	3.9	6.0	2.5	1.3	17.9	14.8	14.8	-
横浜西部	8,455	30.6	10.9	24.6	3.2	6.7	2.3	1.6	16.7	15.9	6.6	-
横浜南部	8,639	28.5	11.2	26.0	3.4	6.4	2.5	1.5	16.3	18.1	8.4	-
川崎市	9,080	27.3	10.0	26.2	3.4	5.9	2.6	1.4	18.0	16.8	14.7	-
川崎北部	4,720	26.1	10.7	28.1	3.9	5.8	2.8	1.5	19.6	16.8	15.0	-
川崎南部	4,360	28.7	9.2	24.1	2.8	5.9	2.3	1.2	16.3	16.8	14.4	-
横須賀・三浦	6,495	27.9	10.2	23.6	2.6	5.7	2.5	1.5	16.1	17.7	12.5	-
湘南東部	5,180	31.8	11.9	24.9	3.3	7.0	2.8	2.0	15.7	16.8	15.3	-
湘南西部	4,507	32.3	10.5	28.1	3.0	7.8	3.0	1.4	15.6	13.3	13.0	-
県央	6,171	30.9	10.7	26.8	3.0	7.3	2.8	1.2	16.4	14.8	12.7	-
相模原	4,795	27.9	13.4	25.0	3.3	5.7	3.5	1.6	16.6	17.3	8.9	0.0
県西	2,575	34.4	11.6	26.1	3.4	8.4	2.2	2.2	13.8	12.5	9.2	-

(3) 受療医療機関

届り患者の受療した病院・診療所について診断、治療、その後の転帰までも含めた述べ受診者数を医療機関の規模別にまとめた（表10）。

149床以下を小規模病院、150－499床を中規模病院、500床以上を大規模病院とした。専門病院はがん専門の病院である。

図18に全部位、胃、肺、結腸、乳房、子宮の病院規模別受療状況を示した。

全国がん登録開始に伴い、県外在住者の県内医療機関受療が届出されるようになった為、付表13について、県内在住者、県外在住者を分け集計した。

付表13－1に県内在住者の主要部位と二次保健医療圏別病院規模別の受療状況を示した。

大学病院では骨61.8%、喉頭58.9%、口腔・咽頭55.1%の受療割合が高く、がん専門病院では骨19.1%、甲状腺12.8%、膵10.0%の受療割合が高い。大規模病院では卵巣、白血病、子宮の受療割合が高い。地域別にみると大規模病院は横須賀・三浦、大学病院は横浜南部、専門病院は横浜西部の受療割合が高い。

また、県西は中規模病院への受療割合が高い。患者の受療には、患者の居住地域や医療機関の設置状況、交通との関係があるとみられる。

付表13－2に県外在住者について主要部位別・病院規模別の受療の状況を示した。

大学病院では脳、喉頭、腎の受療割合が高く、大規模病院では甲状腺、直腸の割合が高くなっている。

表10 病院規模別受診割合の比較（％）

病院規模	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
診療所	1.5	1.4	1.5	1.6	1.4	1.3
149床以下	1.1	1.1	0.8	1.0	4.0	4.2
150-499床	31.9	32.9	34.1	33.8	37.8	38.1
500床以上	25.6	24.6	27.4	28.1	25.7	25.7
専門病院	5.0	5.1	6.1	5.8	5.7	5.5
大学病院	34.6	33.1	36.1	35.8	32.0	30.6
県外	0.2	1.7	1.9	1.6	-	-※

※全国がん登録開始に伴い、県外在住者の県内医療機関受療の届出を別集計としたため

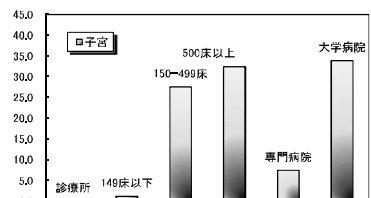
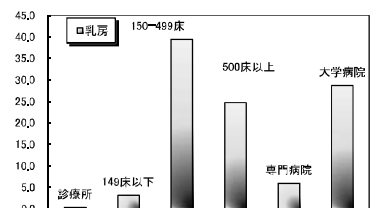
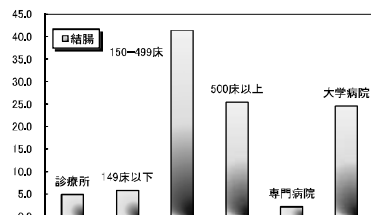
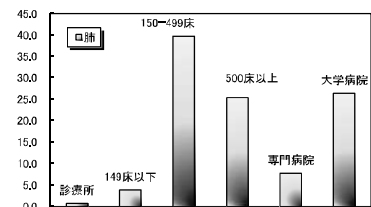
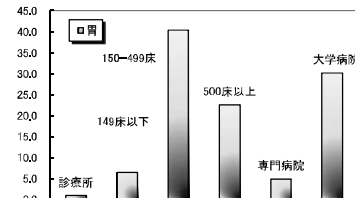
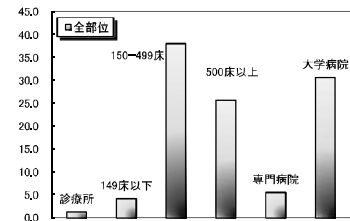


図18 病院規模別・受療状況（％）平成29年

7. 5年相対生存率

がん統計では患者の予後を示す指標として、届出し患者の実測生存率（累積生存率）及び相対生存率を算出している。相対生存率は実測生存率を期待生存率で割ったものである。生存率の算定にあたっては、登録患者についての生死の確認をおこなっていく必要がある。平成18年度まで人口動態調査死亡票の照合による死亡の確認のみであったが、平成19年度より神奈川県的全市区町村へ住民票照会を実施し、生存確認や居住確認の予後調査が実施できている（付表15）。

予後調査は、平成24年から住民基本台帳ネットワークシステムとの照合が使用できるようになり、生存確認調査の省力化がはかれるようになった。

主要部位の5年相対生存率について平成21年、22年、23年、24年、25年に診断され、医療機関から届出された患者について表11にのせた。平成21年から平成25年までを比べてみると、男性では食道、肺、胃、女性では肺、直腸、胃の生存率が少しずつ高くなっている。

生存率の高い部位は男性では前立腺96.4%、皮膚96.2%、甲状腺92.4%、女性では皮膚97.3%、甲状腺91.9%、乳房91.2%である。逆に低いのは男性では膵9.1%、脳26.5%、胆のう・胆管28.9%、女性では膵12.1%、胆のう・胆管24.5%、脳33.4%である。

表11 部位別5年相対生存率（%）

		ICD-10	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
性別	全部位	C00-C96	63.0	63.7	64.3	64.6	64.9
男	口腔・咽頭	C00-C14	58.0	56.5	58.4	56.3	59.3
	食道	C15	38.3	42.6	43.5	45.7	45.0
	胃	C16	62.6	65.3	65.4	67.0	66.1
	結腸	C18	78.0	77.7	79.1	78.0	78.7
	直腸	C19-C20	74.2	71.1	74.8	74.5	74.5
	肝・肝内胆管	C22	31.3	33.0	32.7	35.3	33.8
	胆のう・胆管	C23-C24	32.5	27.8	33.5	29.3	28.9
	膵	C25	8.0	9.9	9.2	11.0	9.1
	喉頭	C32	79.1	86.4	78.0	79.9	79.9
	肺	C33-C34	28.1	27.6	30.3	30.1	31.9
	骨	C40-C41	20.2	54.7	54.4	52.8	68.8
	皮膚	C43-C44	99.9	86.4	93.2	93.8	96.2
	前立腺	C61	98.6	97.5	98.2	98.0	96.4
	腎	C64	79.3	83.4	77.2	79.4	78.2
	膀胱	C67	82.3	84.4	83.2	84.5	84.9
	脳	C71	31.2	33.3	38.8	33.6	26.5
	甲状腺	C73	92.6	92.0	87.4	89.9	92.4
	白血病	C91-C95	37.1	43.2	43.8	43.1	46.4
性別	全部位	C00-C96	70.3	70.2	69.8	71.2	71.8
女	口腔・咽頭	C00-C14	65.6	70.8	65.5	68.9	65.7
	食道	C15	53.9	48.2	45.1	55.4	52.3
	胃	C16	63.9	66.2	64.6	67.1	67.0
	結腸	C18	77.0	74.8	73.9	77.1	76.3
	直腸	C19-C20	76.5	75.0	75.5	76.9	79.7
	肝・肝内胆管	C22	30.7	34.1	34.0	34.3	33.6
	胆のう・胆管	C23-C24	19.3	22.2	21.7	21.4	24.5
	膵	C25	11.8	9.7	10.8	10.8	12.1
	喉頭	C32	86.7	75.4	89.0	91.1	87.8
	肺	C33-C34	42.8	42.9	44.6	49.3	49.0
	骨	C40-C41	46.9	56.1	58.4	58.5	58.1
	皮膚	C43-C44	93.1	90.4	91.6	91.5	97.3
	乳房	C50	93.2	92.3	91.4	91.4	91.2
	子宮	C53-C55	76.0	77.9	78.6	77.5	78.4
	卵巣	C56	61.0	62.1	59.4	59.4	61.9
	腎	C64	79.4	78.9	77.2	81.0	78.4
	膀胱	C67	78.9	78.7	78.6	78.9	76.1
	脳	C71	32.9	33.6	37.7	40.7	33.4
	甲状腺	C73	95.4	94.7	92.5	96.5	91.9
	白血病	C91-C95	39.0	46.8	41.5	51.0	49.9

8. 他都道府県のがん登録との比較（全国がん登録）

我が国の地域がん登録は、平成16年度の第3次対がん10ヵ年戦略事業において、地域がん登録の標準化と精度向上の取り組みを支援し、我が国のがんの実態を正確に迅速に把握し、がん対策に寄与するため「がん予防対策のためのがん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班が立ち上がり、平成18年10月に国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報・統計部に地域がん登録室が開設されるに至った。そこで「地域がん登録を実施している、もしくは事業開始を計画している全ての地域を対象とした標準方式の普及に取り組む」方針となり、その後地域がん登録は全国47都道府県で開始され、平成24年のがんのり患より全ての都道府県よりデータの提出が可能となった。

「がん登録等の推進に関する法律（平成25年法律第111号）」の成立を受け、多くの都道府県では地域がん登録事業は全国がん登録に引き継がれることになった。

しかしながら、神奈川県ではこれまで蓄積されたデータの継続性を鑑み、別途追加項目として収集している、病期「T, N, M, ステージ」情報を含む地域がん登録の運用を維持することとなった。現在全国がん登録、地域がん登録の2つのデータベースがそれぞれ稼働している状況である。今後も、わが県のがん対策の評価の基礎資料として寄与することを目標としている。

表12は全国がん登録における都道府県別り患数・粗り患率・年齢調整り患率である。政府統計のポータルサイト（e-stat）にて公開されている。

表12 都道府県別り患数・粗り患率・年齢調整り患率

	都道府県	罹患数(男)	罹患数(女)	罹患数(総数)	死亡情報のみ の症例 DCO(%) (男)	死亡情報のみ の症例 DCO(%) (女)	死亡情報のみ の症例 DCO(%) (総数)	粗罹患率(男)	粗罹患率(女)	年齢調整罹患率: 世界人口(男)	年齢調整罹患率: 世界人口(女)
1	全 国	558,869	418,510	977,393	1.7	2.5	2.1	906.4	643.4	321.6	257.3
2	北海道	26,447	20,880	47,327	2.0	2.6	2.3	1055.3	742.0	342.7	273.7
3	青 森	6,730	5,131	11,861	1.5	2.7	2.0	1121.7	756.8	354.4	268.9
4	岩 手	5,802	4,400	10,202	1.8	2.3	2.0	960.6	675.9	305.3	238.6
5	宮 城	10,066	7,868	17,934	1.2	1.4	1.3	886.1	662.3	322.3	267.4
6	秋 田	5,674	4,140	9,814	0.9	1.6	1.2	1212.4	784.1	360.3	259.3
7	山 形	5,770	3,988	9,758	0.9	1.9	1.3	1066.6	698.4	330.9	241.3
8	福 島	9,169	6,465	15,634	1.5	2.1	1.8	983.8	679.8	320.1	251.2
9	茨 城	12,808	8,945	21,753	1.8	2.5	2.1	888.2	616.9	308.4	252.5
10	栃 木	8,457	5,867	14,324	1.8	2.5	2.1	868.3	596.8	309.9	242.7
11	群 馬	8,629	6,220	14,849	1.3	2.3	1.7	891.4	627.0	302.3	242.8
12	埼 玉	29,753	21,614	51,367	1.9	2.3	2.1	815.6	590.2	303.7	255.2
13	千 葉	27,249	19,203	46,452	1.6	2.0	1.8	878.2	611.0	316.9	256.0
14	東 京	51,857	41,744	93,602	2.3	3.0	2.6	767.1	599.4	322.8	270.4
15	神奈川	37,113	27,648	64,761	2.3	3.0	2.6	812.3	602.4	311.7	260.0
16	新 潟	11,959	8,480	20,439	0.4	1.0	0.6	1089.2	725.4	352.0	269.0
17	富 山	5,349	3,967	9,316	1.4	2.7	2.0	1046.8	729.2	329.7	264.5
18	石 川	5,278	4,105	9,383	0.8	1.3	1.0	949.3	694.6	330.7	270.3
19	福 井	3,533	2,476	6,009	1.1	1.6	1.3	934.7	617.5	327.1	230.7
20	山 梨	3,701	2,557	6,258	1.8	2.5	2.1	918.4	607.4	305.1	233.7
21	長 野	9,292	7,055	16,348	1.5	2.3	1.9	918.2	663.1	291.8	248.0
22	岐 阜	9,043	6,916	15,959	2.1	3.6	2.8	929.4	668.2	311.1	255.1
23	静 岡	15,949	11,640	27,589	2.4	3.4	2.8	881.2	623.8	296.7	241.5
24	愛 知	29,137	20,763	49,901	1.6	2.1	1.8	774.1	552.1	304.4	239.6
25	三 重	7,966	5,912	13,878	1.0	2.0	1.4	908.3	640.5	303.3	247.8
26	滋 賀	5,824	4,160	9,984	1.2	1.8	1.4	835.6	581.0	319.7	241.6
27	京 都	12,022	8,925	20,947	1.7	2.4	2.0	968.0	657.7	338.4	258.4
28	大 阪	40,154	30,030	70,189	1.9	2.4	2.1	946.8	655.2	340.5	264.9
29	兵 庫	25,156	18,721	43,877	1.9	3.0	2.3	958.7	650.3	330.5	253.0
30	奈 良	6,583	4,801	11,384	1.7	2.7	2.1	1036.7	674.3	328.9	260.8
31	和歌山	4,877	3,518	8,396	1.6	3.2	2.3	1098.4	702.2	340.4	254.1
32	鳥 取	2,865	2,127	4,992	1.0	1.8	1.3	1061.1	721.0	341.2	259.0
33	島 根	3,729	2,640	6,369	0.8	2.6	1.5	1130.0	743.7	340.0	249.2
34	岡 山	8,811	6,394	15,207	1.1	1.6	1.3	961.9	645.2	330.9	250.3
35	広 島	12,928	9,529	22,457	0.7	1.7	1.1	942.3	654.0	336.7	258.5
36	山 口	6,902	4,931	11,833	1.9	2.3	2.1	1053.7	678.3	315.4	229.1
37	徳 島	3,547	2,625	6,172	2.1	3.5	2.7	1002.0	674.8	310.0	242.9
38	香 川	4,821	3,559	8,380	1.7	3.2	2.4	1027.9	713.2	335.9	271.4
39	愛 媛	6,895	5,188	12,081	1.4	1.8	1.6	1069.0	721.3	342.4	266.3
40	高 知	3,560	2,822	6,383	0.8	1.1	0.9	1059.5	748.5	317.2	262.6
41	福 岡	22,228	17,988	40,217	1.5	2.4	1.9	920.4	668.2	335.1	262.7
42	佐 賀	3,813	3,043	6,856	0.8	1.6	1.2	980.2	701.2	333.1	260.3
43	長 崎	7,250	5,556	12,806	1.3	2.1	1.7	1139.9	773.8	355.0	282.3
44	熊 本	7,740	6,130	13,870	1.6	2.3	1.9	929.2	657.0	308.8	255.6
45	大 分	5,253	4,348	9,601	2.6	3.9	3.2	962.1	716.3	304.5	257.9
46	宮 崎	4,780	3,959	8,739	4.4	4.3	4.3	933.6	686.1	300.5	273.4
47	鹿児島	7,790	5,777	13,568	3.4	3.8	3.6	1021.0	669.4	328.0	253.3
48	沖 縄	4,610	3,757	8,367	1.0	1.1	1.0	650.2	511.9	289.1	248.3

出典:厚生労働省健康局がん・疾病対策課発行「全国がん登録 罹患数・率報告(平成29年)」

9. 平成29年のがんり患数と死亡数の比較

がん統計やがんの予防、医療活動の評価のためには、地域がん登録に基づきり患統計とともに、人口動態統計に基づく死亡統計（付表16、17、18）も用い、常に両者を比較しながら検討する必要がある。

特に、り患統計では、その地域の真のり患数をどの程度反映しているのかを吟味すべきである。現在この指標として、（当該年のり患数）÷（当該年の死亡数）（I／D比）を用いている。

(1) 全部位のがん

本県の平成29年のがんり患数は、同年の死亡数の3.0倍である。この値が1.5以下の場合、届出もれのあることが推定されるが、本県では、昭和62年より1.5以上を維持している。

(2) 部位別の比較

主要部位別にみると皮膚（17.1）、前立腺（8.3）、甲状腺（7.5）が高い値を示し、膵（1.2）、胆のう・胆管（1.3）、肝・肝内胆管（1.4）が低い値である。

表13 主要部位別死亡数に対するり患数の比

平成29年				
部 位	ICD-10	死亡数(D)	り患数(I)	I/D
全部位	C00-C96・D06	23,565	69,698	3.0
口腔・咽頭	C00-C14	468	1,432	3.1
食道	C15	858	1,930	2.2
胃	C16	2,828	8,250	2.9
結腸	C18	2,241	9,673	4.3
直腸	C19-C20	961	4,175	4.3
肝・肝内胆管	C22	1,508	2,062	1.4
胆のう・胆管	C23-C24	1,034	1,358	1.3
膵	C25	2,179	2,709	1.2
喉頭	C32	60	316	5.3
肺	C33-C34	4,619	7,632	1.7
骨	C40-C41	40	63	1.6
皮膚	C43-C44	98	1,674	17.1
乳房	C50	1,093	7,497	6.9
子宮	C53-C55・D06	447	3,216	7.2
卵巣	C56	343	903	2.6
前立腺	C61	735	6,103	8.3
腎	C64	308	1,208	3.9
膀胱	C67	533	2,573	4.8
脳	C71	160	316	2.0
甲状腺	C73	105	787	7.5
白血病	C91-C95	510	835	1.6